

[様式 1～8] 自己点検・評価報告書

令和 3 年度
自己点検・評価報告書

令和 3 年 9 月

学校法人電波学園

愛知工科大学自動車短期大学

目次

【基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果】	
[テーマ 基準Ⅰ-A 建学の精神]	3
[テーマ 基準Ⅰ-B 教育の効果]	8
[テーマ 基準Ⅰ-C 内部質保証]	13
【基準Ⅱ 教育課程と学生支援】	
[テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程]	18
[テーマ 基準Ⅱ-B 学生支援]	37
【基準Ⅲ 教育資源と財的資源】	
[テーマ 基準Ⅲ-A 人的資源]	66
[テーマ 基準Ⅲ-B 物的資源]	83
[テーマ 基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源]	87

【資料】

- [様式 9] 提出資料一覧
- [様式 10] 備付資料一覧
- [様式 11～17] 基礎データ

【基準 I 建学の精神と教育の効果】

[テーマ 基準 I -A 建学の精神]

＜根拠資料＞

- 提出資料 1 学生便覧 2020
- 備付資料 1 蒲郡市と愛知工科大学自動車短期大学との連携と協力に関する協定書
- 2 蒲郡市立図書館と愛知工科大学附属図書館との相互協力に関する協定書
- 3 災害時における施設の利用に関する協定書
- 4 愛知工科大学自動車短期大学と幸田町との連携と協力に関する協定書
- 5 幸田町立立図書館と愛知工科大学附属図書館との相互協力に関する協定書

[区分 基準 I -A-1 建学の精神を確立している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 建学の精神は短期大学の教育理念・理想を明確に示している。
- (2) 建学の精神は教育基本法及び私立学校法に基づいた公共性を有している。
- (3) 建学の精神を学内外に表明している。
- (4) 建学の精神を学内において共有している。
- (5) 建学の精神を定期的に確認している。

＜区分 基準 I -A-1 の現状＞

本学の建学の精神は「社会から喜ばれる知識と技術をもち歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し英知と勤勉な国民性を高め科学技術、文化の発展に貢献する」である（提出-1）。即ち、社会から喜ばれる知識と技術を持ち、特定の主義主張や思想に偏向することなく、健全で中立な社会観と堅実な人生観を持ち合わせ、周囲から愛され、信頼される人材の育成を本学の教育の原点としている。この精神を具現化するため、教育指針、教育研究上の目的、教育目標を定め（提出-1）、教育理念・理想を明確に示している。

教育指針：「心を磨き、技を極め、夢に挑む」

愛知工科大学自動車短期大学の教育研究上の目的

本学は、国土交通省の定めた認定大学として「二級自動車整備士」の国家資格の取得を通して、自動車工学や自動車整備に関係する知識・技術を修得し、同時に技術者として必要不可欠な「意欲」「人間性」「能力」の三要件がバランスよく向上するよう教育を行うことを目的とする。

愛知工科大学自動車短期大学の教育目標

愛知工科大学自動車短期大学では、より複雑化、高度化する自動車技術社会において「二級自動車整備士の資格を有し、確かな基礎能力と幅広い教養を持ち、多様な業種に対応できる人材の養成」を行うため、次のことを目標に人材を養成します。

1. 国家資格である二級自動車整備士を養成します。
2. 本学独自の教育システムにより、「意欲」「人間性」「能力」の三要件がバランスよく向上するよう支援します。
3. 高度に進化を続けるカーテクノロジーをより深く探求し、高機能化、複雑化する自動車整備技術に対応できる人材を養成します。

建学の精神を基にした教育指針、教育研究上の目的、教育目標として掲げている本学が養成する二級自動車整備士は、国家資格であり日本経済を支える自動車産業の整備事業を担う自動車のドクターとしての安全・安心を提供しており、公共性を有している。

建学の精神は、学外に対しては本学ホームページ上で表明し、学内に対しては毎年全学生及び全教職員に対して配布する学生便覧・授業概要やキャンパス内建物全室に、額装した「学園建学の精神」を掲げ表明している。

また、建学の精神は、入学式、卒業証書・学位記授与式における告辞、式辞において学長から、新入生オリエンテーション、年度当初の在学生ガイダンスにおいて学科長から訓示の中で周知し共有している。

建学の精神は、教授会で毎年度末に確認している。

[区分 基準 I -A-2 高等教育機関として地域・社会に貢献している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 地域・社会に向けた公開講座、生涯学習事業、正課授業の開放（リカレント教育を含む）等を実施している。
- (2) 地域・社会の地方公共団体、企業（等）、教育機関及び文化団体等と協定を締結するなど連携している。
- (3) 教職員及び学生がボランティア活動等を通じて地域・社会に貢献している。

<区分 基準 I -A-2 の現状>

地域社会に向けた公開講座、生涯学習事業等については、蒲郡市と幸田町を中心に、それぞれの要請にこたえる形で少年少女発明クラブを本学の施設・設備も活用し実施している（表 I -A-1）。開催にあたっては、同一敷地内にある愛知工科大学と協力し、蒲郡少年少女発明クラブは主に本学教員及び本学 OB が指導員として加わり、幸田町少年少女発明クラブは主に愛知工科大学教員が指導員として加わっている。これらの発

明クラブは理科や技術に興味や関心を高めて貰えるよう努めており地域からの評価は高い。なお、本学OBがNPO法人を設立するとともに中心的な活動をしていることから、令和2年度からは現役の本学教員が担当したもののみを記載することとし、また、新型コロナウイルス感染防止通達により、実質的な活動を控えた。

その他、高大連携活動(表I-A-2)として教員を派遣した出張講義や本学での体験授業を積極的に実施しているが、正課授業の開放は国土交通省の認定科目が多いことや一クラスの受講人数の制限などから実施していない。

本学及び愛知工科大学は地元蒲郡市・幸田町にとって唯一の短期大学及び大学であり、地域からの文化・学術交流や防災対応等についての期待は大きい。地域との交流を円滑に推進するため、蒲郡市とは「蒲郡市と愛知工科大学自動車短期大学との連携と協力に関する協定書」(備付-1)、「蒲郡市立図書館と愛知工科大学附属図書館との相互協力に関する協定書」(備付-2)と「災害時における施設の利用に関する協定」(備付-3)を締結し、幸田町とは「愛知工科大学自動車短期大学と幸田町との連携と協力に関する協定書」(備付-4)、「幸田町立立図書館と愛知工科大学附属図書館との相互協力に関する協定書」(備付-5)を締結し連携している。

ボランティア活動等を通じて地域・社会に貢献することについては、ボランティア活動等に積極的に学生が参加することを目的として、PYE制度(Points for Your Efforts:「努力の成果」)を設け既定のポイントをクリアした際に、それを称える表彰を行っているが、活動内容は学内的なボランティアのみに留まっている。また、教職員については、自動車整備士の資格を始めとする各種資格講座(ガス溶接技能講習、電気自動車等の整備の業務に係る特別教育、危険物取扱者等)を取得させることに力を入れていることもあり、ボランティア活動については、スズキ販売会社グループへの新入社員研修会に対して、本学教員が自動車に関する講義・実習を支援している。又、本学が位置する蒲郡市の防犯を支援するため、本学教職員が毎月2回青色回転灯装備車による自主防犯パトロールを実施している。

表I-A-1 公開講座等実施状況

	名 称	実施日	目的・カリキュラム
平成30年度	蒲郡青少年少女 発明クラブ	5/12、6/9、7/7、8/4、 9/8、10/6、11/3、12/15、 1/12、2/9、3/2	児童生徒に科学技術に関する興味、関心を追及する場を提供し、創作活動を通して、創造性豊かな人間形成を図る。 カリキュラム例： ・親子で考えよう。発想・創造 ・坂道をトコトコ歩く「トコトコ馬」を作ろう ・輪ゴムのスーパーカーを作ろう ・レゴロボット ・パタパタカードを作ろう ・ばねを使ってマイクを作ろう！
	幸田町青少年少女 発明クラブ	5/20、6/23、7/14、8/11、 9/15、10/13、11/3、 12/22、1/26、2/16	
令和元年度	蒲郡青少年少女 発明クラブ	5/11、6/8、7/6、8/3、 9/7、10/5、11/16、12/14、 1/11、2/8、2/29	
	幸田町青少年少女 発明クラブ	5/19、6/23、7/7、8/17、 9/14、10/20、11/2、12/21、 1/25、2/15	

令和2年度	蒲郡少年少女 発明クラブ	※コロナウイルス感染症防 止のため活動なし	
-------	-----------------	--------------------------	--

表 I -A-2 高大連携活動

	実施日	連携校	講座内容	種別
平成30年度	6/23	あいち情専専門学校 高等課程	「自動車の燃費向上技術」 ハイブリッド車について	体験授業
	8/23	東三河・浜松地区高 大連携協議会会員校	自動車系エンジニア～スキル習得の最短手段～	出張講義
	11/15	豊橋西高校	ちがいは講座	出張講義
	11/15	瀬戸高校	自動車整備まる分かり講座	出張講義
	1/24	一色高校	自動車整備まる分かり講座	出張講義
	1/28	三谷水産高校	ハイブリッドカーについて	出張講義
	1/30	湖西高校	自動車まる分かり講座	出張講義
令和元年度	2/18	蒲郡高校	「自動車の燃費向上技術」 ハイブリッド車について	出張講義
	6/12	あいち情専専門学校 高等課程	「自動車の燃費向上技術」 ハイブリッド車について	体験授業
	7/6	豊川高校	ハイブリッド車について	出張講義
	8/22	東三河・浜松地区高 大連携協議会会員校	「自動車の燃費向上技術」 ハイブリッド車について	出張講義
	11/11	福江高校	自動車整備士	出張講義
	11/14	瀬戸高校	自動車整備まる分かり講座	出張講義
	12/12	一色高校	ハイブリッド車について	出張講義
	1/9	高浜高校	自動車整備士について	出張講義
	1/27	三谷水産高校	ハイブリッド車について	出張講義
令和2年度	1/31	刈谷東高校	自動車整備まる分かり講座	出張講義
	9/14	蒲郡高校	「自動車の燃費向上技術」 ハイブリッド車について	出張講義
	12/4	豊橋高校	ハイブリッド車について	出張講義
	2/3	新居高校	ハイブリッド車について	出張講義

<テーマ 基準 I -A 建学の精神の課題>

「建学の精神」は学内外に表明し、学内では様々な方法で学生に周知しているが、学生がどの程度認識し定着しているかを把握するため、平成30年度からアンケート調査を実施し数量的データの収集を行なっている。(表 I -A-3) (表 I -A-4)

学園建学の精神は、全教室のほぼ正面に掲げているにも拘らず、いずれの年度も7割程度に留まっていることから、認知度・理解度を向上させるための取組に工夫が必要

である。

表 I-3 「学園建学の精神」に関する調査（質問事項）

①あなたは、本学の「学園建学の精神」が掲示されていることを知っていますか。 4. よく知っている。 3. 少しは知っている。 2. あまり知らない。 1. まったく知らない。
②あなたは、本学の「学園建学の精神」を理解できていますか。 4. よく理解できています。 3. 少し理解できています。 2. あまり理解できていない。 1. まったく理解できていない。
③あなたは、「学園建学の精神」に基づいた本学の教育指針「心を磨き、技を極め、夢に挑む」を知っていますか。 4. よく知っている。 3. 少しは知っている。 2. あまり知らない。 1. まったく知らない。
④あなたは、「学園建学の精神」に基づいた本学の教育指針「心を磨き、技を極め、夢に挑む」について理解できていますか。 4. よく理解できています。 3. 少し理解できています。 2. あまり理解できていない。 1. まったく理解できていない。
⑤あなたは、教育指針「心を磨き、技を極め、夢に挑む」に基づき、学業や学生生活に取り組んでいますか。 4. しっかり取り組んでいる。 3. ある程度取り組んでいる。 2. あまり取り組めていない。 1. まったく取り組めていない。

表 I-4 「学園建学の精神」に関する調査（回答結果）

	① 提示	② 理解	③ 指針	④ 理解	⑤ 取組
平成 30 年度 1 年生	70%	67%	76%	75%	74%
平成 30 年度 2 年生	66%	66%	75%	71%	71%
令和元年度 1 年生	70%	69%	77%	75%	75%
令和元年度 2 年生	75%	63%	79%	70%	70%
令和 2 年度 1 年生	71%	71%	77%	76%	77%
令和 2 年度 2 年生	72%	72%	76%	75%	77%

<テーマ 基準 I-A 建学の精神の特記事項>

(1) 以上の基準以外に建学の精神と教育の効果について努力している事項。

学生が学習環境に適応し、スムーズな修学ができるよう、学生の相談相手となって勉学・学生生活など必要な指導・助言を与えるために 2 年間一貫してクラス担任制（1 学年 3 クラス、1 クラス約 40 名）を設けている。クラス担任は、入学早々にクラス学生全員と個人面談を実施し学生個々の性格、入学の動機、勉学

意欲、基礎的能力、将来の希望等を早期に掌握し、修学、学生生活、進路など様々な相談相手となっている。また、必要に応じて学科教員との情報を交換することで、教育の効果の向上に繋げている。

【基準 I 建学の精神と教育の効果】

[テーマ 基準 I -B 教育の効果]

<根拠資料>

- 提出資料
- 1 学生便覧 2020
 - 2 ウェブサイト 大学理念
<https://www.autjc.ac.jp/outline/spirit/>
 - 3 2021 学生募集要項
 - 4 愛知工科大学自動車短期大学 学則
 - 5 ウェブサイト 在学生の方へ（学生便覧・授業概要）
<https://www.autjc.ac.jp/campuslife/handbook/>
 - 6 ウェブサイト 大学理念（愛知工科大学自動車短期大学における教育研究上の目的について）
<https://www.autjc.ac.jp/outline/spirit/>
 - 7 ウェブサイト 大学理念（教育目標）
<https://www.autjc.ac.jp/outline/spirit/>
 - 8 大学案内 2021
 - 9 ウェブサイト 教育方針
<https://www.autjc.ac.jp/outline/policy/>
 - 10 ウェブサイト 情報公開（学修実態・学修時間、学修成果、単位取得の状況）
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/study_actual_conditions2020_jc.pdf
- 備付資料
- 9 ウェブサイト（卒業生からの意見聴取及びその対応）
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/obog_iken2019_jc.pdf
 - 10 ウェブサイト（卒業生の就職先会社からの意見聴取及び分析結果）
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/obog_syusyoku_bunseki2019_jc.pdf
 - 11 ウェブサイト（成績の分布状況）
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2021/07/bunpu_jc2020.pdf
 - 12 ウェブサイト（学修実態・学修時間、学修成果、単位取得の状況）
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2021/07/bunpu_jc2020.pdf

- 13 ウェブサイト（卒業生の就職・進学状況、資格取得状況）
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/syushokushikaku_jc2019.pdf
- 14 オープンキャンパスガイド（2021年度）
- 15 AUT自動車教育入門
- 16 学級日誌
- 17 教育懇談会 配布資料
- 18 入学者選抜ガイド

[区分 基準 I-B-1 教育目的・目標を確立している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学科・専攻課程の教育目的・目標を建学の精神に基づき確立している。
- (2) 学科・専攻課程の教育目的・目標を学内外に表明している。
- (3) 学科・専攻課程の教育目的・目標に基づく人材養成が地域・社会の要請に応えているか定期的に点検している。（学習成果の点検については、基準 II-A-6）

<区分 基準 I-B-1 の現状>

「学園建学の精神」に基づき、目的、使命及び教育研究上の目的を学則（提出-1、4）第1条（目的）、第1条の2（使命）及び第1条の3（教育研究上の目的）に定めている。

愛知工科大学自動車短期大学学則

（目的）

第1条 愛知工科大学自動車短期大学（以下「本学」という。）は、教育基本法及び学校教育法に基づき、一般教養ならびに産業技術に関する研究と実務的指導を行い、社会から喜ばれる知識技能と歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、もって地域社会の産業発展に寄与することを目的とする。

（使命）

第1条の2 本学は、学園建学の精神に則り、未来を創る夢に挑み、夢の実現によって社会に貢献することを使命とする。

（教育研究上の目的）

第1条の3 本学は、人材の養成に関する目的及び教育研究上の目的に関し、必要な事項を別に定める。

また、教育研究上の目的及び教育目標を学生便覧（提出-1）に定めている。以上のとおり、国家資格である二級自動車整備士資格の取得はもとより、「意欲」「人間性」「能力」の三要件がバランスよく向上し、高機能化、複雑化する自動車整備技術に対応できる人材育成を目的としている。

自動車工業学科の学則、教育研究上の目的及び教育目標を記載した学生便覧（提出-1）を学内では学生に配布し、学外へは公式ホームページ（提出-2）を通して公表している。また、本学の大学概要に関するホームページで教育研究上の目的（提出-6）及び教育目標（提出-7）を学外に表明し、学生募集要項（提出-3）を通して教育目標についても表明している。

教育目標に基づいた教育を実践し、卒業生を地域の企業へ送り出している。また、卒業生が社会の要請に応じているか否かについて卒業生を対象に意見聴取し（備付-9）確認している。さらに、卒業生の就職先の会社（本学企業後援会組織「愛技会」）から意見聴取を行い、分析した結果（備付-10）を教授会で定期的に点検し、時代の趨勢や社会情勢の変化によって見直しを行っている。

[区分 基準 I-B-2 学習成果（Student Learning Outcomes）を定めている。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 短期大学としての学習成果を建学の精神に基づき定めている。
- (2) 学科・専攻課程の学習成果を学科・専攻課程の教育目的・目標に基づき定めている。
- (3) 学習成果を学内外に表明している。
- (4) 学習成果を学校教育法の短期大学の規定に照らして、定期的に点検している。

<区分 基準 I-B-2 の現状>

建学の精神、教育研究上の目的及び教育目標に基づき、学生が習得すべき学力や資質を学習成果として定めている。本学における教育目標の骨子は、国家資格である二級自動車整備士資格の取得はもとより、「意欲」「人間性」「能力」の三要件がバランスよく向上し、高機能化、複雑化する自動車整備技術に対応できる人材を育成することにある。学習成果はこの教育目標に則った学習を進めれば自然に獲得できるはずの成果であり、学生の学習成果は、成績評価、学修成果に関する授業評価アンケート・単位取得状況（提出-10）で査定するとともに、資格取得状況、就職率・進学率（備付-13）などでも行っている。特に、二級自動車整備士資格は自動車整備業界で仕事をする上において必要不可欠なものであり、将来、整備主任者や検査員になるための前提となる資格である。このため国家資格である二級自動車整備士の資格取得の有無（備付-13）が最も重要な学習成果と言える。

本学での学習成果やカリキュラム内容、取得可能な資格、本学での学びで身につける事柄、卒業後どのような社会に貢献しているかを、学外には大学案内パンフレット（提出-8）、本学ホームページ（備付-11、13）やオープンキャンパス（備付-14）での説明で表明し、学内には、学期はじめのオリエンテーション、1年前期開講の「AUT自動車教育入門」（備付-15）で説明している。さらに、学生便覧（提出-1、5）にも掲載し、常に教職員や学生が意識できるようにしている。

本学での一連の学びが学習成果となるよう、学校教育法第108条の「深く専門の

学芸を教授研究し、職業または實際生活に必要な能力を育成することを主な目的とすることができる」の規定に照らし、また短期大学設置基準（第4章教育課程）に照らし合わせながら、成績評価や卒業判定においても、この学習成果を定期的に点検している。

[区分 基準 I-B-3 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針（三つの方針）を一体的に策定し、公表している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 三つの方針を関連付けて一体的に定めている。
- (2) 三つの方針を組織的議論を重ねて策定している。
- (3) 三つの方針を踏まえた教育活動を行っている。
- (4) 三つの方針を学内外に表明している。

＜区分 基準 I-B-3 の現状＞

本学の学生に獲得させたい学習成果とその学習成果によって養成したい短期大学士について纏めたものが建学の精神に基づいて策定したディプロマ・ポリシーである。ディプロマ・ポリシーは卒業認定の条件であり、これだけのものを備えなければ、学位を授与できないことを示している。このポリシーは本学の定める学習成果に合致しており、自動車整備士としてだけでなく社会人として地域社会に貢献できる人材に成長することの重要性を求めている。これに則った学習成果が得られるように具体性を持たせた学習の方法などを、これに続くカリキュラム・ポリシーで定めている。さらにアドミッション・ポリシーでは、前述した二つの方針を受け入れられる学生の入学を求めており、三つの方針は関連付けて一体的に定めている。

三つの方針の根底にある建学の精神を持って、地域社会に貢献できる自動車整備士を養成するために何が必要かを様々な会議で常に議論を重ねて策定している。ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーについては、定期的に自己点検・評価委員会及び教務委員会で議論し、アドミッション・ポリシーについては、入試広報委員会において議論した内容を教授会で審議し、追加や改変の必要があれば速やかに対応している。平成30年度には、アドミッション・ポリシーについて見直しを行い、令和元年度より新たな方針により入学生の受け入れを開始した。令和元年度には三つの方針についてさらに見直しを行い、学園建学の精神に則り、本学の教育目標に沿った人材育成をより強固なものにするため、三つの方針の各項目番号がリンクするように改訂した。

教育活動は三つの方針に基づいて行っており、カリキュラムは教務委員会などで常に点検・見直しを行い改善を重ねてきた。令和元年度からカリキュラム・ポリシーの「グループ学習など能動的な授業によって学習意欲を喚起し、主体性及び協調性を養います」を発展させるために、必修科目として「AUT自動車教育入門」を新しく開講した。また、社会における教育改革の動向から選択科目であった「情報リテラシー」を必修科目に変更した。また、現状の科目を漫然と繰り返すことにならないよう、単位数

や授業時間数を増減するなど、学習成果が得やすい教育内容となるように改善している。2年生の就職内定者を対象に夏休みを活用したインターンシップは、就職前に実地体験をさせる教育活動の一環である。令和2年度からは各科目におけるシラバスにおいて“到達目標”、“成績評価”、“ディプロマ・ポリシー”の3つを連動させて記載する方式に変更した。シラバスに記載されている各科目の“到達目標”は科目ごとに求める学力や資質が異なるため内容も異なるが、いずれも“ディプロマ・ポリシー”と強く結びついている。当然、到達目標の水準に達することは、その科目の修得条件を満たすことと同義であるため、“成績評価”との関連も強い。このため、3つを関連させて一体的に評価できるシラバスの記載方式に変更し、各科目のどの到達目標がどの程度の評価比率で、どのディプロマ・ポリシーと関連があるのかを明確にした。

三つの方針は学生便覧（提出-1、6）、本学ホームページ（提出-9）により学内外に表明している。さらに、アドミッション・ポリシーについては学生募集要項（提出-3）、入学者選抜ガイド（備付-18）にも記載し学外に表明している。

<テーマ 基準 I-B 教育の効果の課題>

機関（大学）レベルの学習成果は「学位授与数」、「就職率」、「進学率」、「満足度調査」、「自動車整備士合格率」として質的・量的評価が可能である。教育課程（学科）レベルについても「卒業率」、「成長ふりかえりシート」、「資格取得状況」で質的・量的評価が可能である。科目レベルについては「成績評価」、「授業評価アンケート」により質的・量的評価を行ってきた。ただし、「授業評価アンケート」は全科目を同一の質問内容で調査するため、科目レベルでの質的評価は可能だが、個人レベルでの学習成果を調査することはできない。学生個々の成長を測定する仕組みについてはGPAや成績通知書で可能だが、いずれも量的評価であり、質的評価を測定する仕組みについては確立されておらず、測定が可能かも含めて検討する必要がある。

<テーマ 基準 I-B 教育の効果の特記事項>

全クラスに学級日誌（備付-16）があり、毎日その日の授業科目、授業内容、反省事項、所感などを当番制で記入させ、クラス担任が学生の意見等を汲み上げている。また、記入した学生の意見等に関して、クラス担任がコメントを記入すると同時に必要に応じて対応している。

保護者からの意見を汲み上げる目的で、開学以来、毎年、本学及び地方15会場において「教育懇談会」（備付-17）を開催している。令和2年度は新型コロナウイルスにより実施できなかったが、令和元年度に実施した地方15会場は、岐阜県（郡上市、高山市）、滋賀県（長浜市）、富山県（富山市）、沖縄県（石垣市、宮古島市、那覇市）、三重県（熊野市、伊勢市）、長野県（松本市、飯田市）、石川県（金沢市）、福井県（福井市）、静岡県（静岡市、浜松市）である。

懇談会における保護者との面談では、学業に関すること、進路に関すること、学生生活に関することなど保護者からの意見をお聞きしている。また、教員、学生、保護者による三者一体で、本学へ入学した学生の目的意識の再確認、やる気の誘発ばかりでなく、潜んでいる悩みごとの相談などもあり、学習及び学生生活支援に役立てている。教

育懇談会への参加者は毎年概ね在籍者の50%程で推移している。

表 I-B-1 教育懇談会参加状況表（人）

項目\年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
在籍数	268	237	219
本学会場参加数	128	112	61
地方会場参加数	14	13	中止
参加者合計	142	125	61
参加率	53.0%	52.7%	27.9%

[テーマ 基準 I-C 内部質保証]

<根拠資料>

- 提出資料 11 愛知工科大学自動車短期大学 自己点検・評価委員会規程
 備付資料 19 平成29・30年度自己点検・評価報告書
 20 令和元・2年度自己点検・評価報告書
 22 a 愛知工科大学自動車短期大学と愛知産業大学工業高等学校との
 連携協力に関する協定書
 22 b 愛知工科大学自動車短期大学と愛知産業大学三河高等学校との
 連携協力に関する協定書
 23 広島国際学院大学自動車短期大学部との相互評価に関する報告書
 24 2021年度入学生に示す短期大学3ポリシー改訂について
 25 教育・研究改善シート
 27 2019(令和元)年度 学生における授業評価アンケート
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/class_evaluation2019_jc.pdf
 28 2019(令和元)年度 卒業生の満足度調査
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/satisfaction_survey2019_jc.pdf

備付資料-規定集

- 1 教育研究上の目的に関する規程
- 2 自己点検・評価委員会規定

[区分 基準 I-C-1 自己点検・評価活動等の実施体制を確立し、内部質保証に取り組んでいる。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 自己点検・評価のための規程及び組織を整備している。

- (2) 日常的に自己点検・評価を行っている。
- (3) 定期的に自己点検・評価報告書等を公表している。
- (4) 自己点検・評価活動に全教職員が関与している。
- (5) 自己点検・評価活動に高等学校等の関係者の意見聴取を取り入れている。
- (6) 自己点検・評価の結果を改革・改善に活用している。

<区分 基準 I-C-1 の現状>

平成 16 年度からの認証評価制度の導入に伴い、常設委員会として自己点検・評価委員会が設置され、平成 17 年度に自己点検・評価委員会規程が制定されている。教務関係、学生生活関係、就職活動関係、資格取得指導関係などについてはそれぞれの事項について協議・検討する委員会があり、毎月 1 回の定例委員会が開催され定期的に点検・評価を行っている。また、下部組織として学科長がチームリーダーとなる推進チームを設置し、自己点検・評価報告書の作成及び資料収集に当たっている。自己点検・評価の活動報告は、短期大学評価企画 I R 室が各委員会や部署と連携して、2 か年をセットにして自己点検・評価報告書に纏め、学内教職員への配布や関係機関に送付すると共にホームページにも公開している。教育や就職に関する事項は協定している高等学校や後援会企業からの意見聴取を毎年度行い改善への助言を得るようにしている。

各委員会では、年度活動目標を策定し年度末には総括を行い、その振り返りを基に次年度計画を立てて遂行するという P D C A サイクルを確立して改革・改善に取り組んでおり、学内全教職員が各部署で関わる体制となっている。

[区分 基準 I-C-2 教育の質を保証している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学習成果を焦点とする査定（アセスメント）の手法を有している。
- (2) 査定の手法を定期的に点検している。
- (3) 教育の向上・充実のための PDCA サイクルを活用している。
- (4) 学校教育法、短期大学設置基準等の関係法令の変更などを確認し、法令を遵守している。

<区分 基準 I-C-2 の現状>

本学は教育研究上の目的に関する規程第 7 条に「学習成果の評価に関する方針(アセスメント・ポリシー)」を定めて、この方針に従った科目レベル、教育課程レベル、機関レベルの指標で査定している。科目レベルでは、科目ごとにディプロマ・ポリシー(DP)に基づいた到達目標に向けて講義内容(シラバス)に明記している。授業最終回には「授業評価アンケート」を実施し、学生自身・教科担当者・授業全体についての評価結果に基づいて、教科担当者は講義内容や指導方法を見直し改善を行っている。平成 27 年度からは各自が授業改善のための「Plan (計画)」「Do (実施)」「Check (確認)」「Action (対策)」シート(備付-25)を作成し、教育・研究改善に取り組んでいる。教

育課程レベルでは、進級率、単位取得状況、GPA値、資格取得状況、成長アンケート等から教育課程編成の改善に教務委員会が取り組んでいる。機関レベルでは、国家資格である二級自動車整備士資格の取得率(合格率)(表I-C-1、2)を学習成果の最重要指標としており、卒業率、就職実績、進学実績、満足度調査結果なども学習成果としている。この結果を自己点検・評価委員会及び評価企画IR室がとりまとめ、次年度以降の教育計画に反映するように教授会で検討している。各委員会において計画される事項は、常にPDCAサイクルに沿った取り組みをしており、教育の向上・充実のためのPDCAサイクルに関しては、毎年、開講科目、シラバス、授業方法等の見直しを行って質の保証に取り組んでいる。また、学校教育法、短期大学設置基準等の関係法令の変更などを確認するとともに、文部科学省、国土交通省の定める関係法令を遵守し、その都度学内規程等の一部改正を行い、法令遵守とともに内部質保証に向けた取り組みをしている。

表 I -C-1 二級ガソリン自動車整備士 登録試験合格率

年度	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	備考
2018(平成30)	134	132	98.5	
2019(令和元)	91	87	95.6	
2020(令和2)	109	108	99.1	

表 I -C-2 二級ジーゼル自動車整備士 登録試験合格率

年度	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	備考
2018(平成30)	133	129	97.0	
2019(令和元)	85	84	98.8	
2020(令和2)	108	108	100	

<テーマ 基準 I -C 内部質保証の課題>

自己点検・評価活動には、学生アンケート、保護者アンケート、企業アンケートなどの情報を基に自己点検活動を展開し質保証に活用しているが、高等学校等の関係者からの意見聴取は協定校のみに限られているので、更なる情報収集の方法を策定する必要がある。

<テーマ 基準 I -C 内部質保証の特記事項>

本学では、定期的に広島国際学院大学自動車短期大学部と相互評価(備付-23)を行っている。相互評価を通して、教学を中心とした点検評価は、本学の改善事項が明確になり、教育の質の向上に繋がっている。しかし、自動車産業界は大きな転換期を迎えており、逐次改正される制度に対応した自動車整備教育内容を再構築する必要がある。このため各関係団体との連携強化を図り、必要な情報収集に努め、対応の迅速化を図れるよう取り組んでいる。

<基準 I 建学の精神と教育の効果の改善状況・改善計画>

(a) 前回の認証(第三者)評価を受けた際に自己点検・評価報告書に記述した行動計画

の実施状況

○基準Ⅱ 教育課程と学生支援【テーマ A 教育課程】における向上・充実のための課題として、「シラバスに必要な項目が明示されているが、到達目標が具体性に欠ける科目もあり、より具体化し、学生にとって分かりやすく記述することが望まれる。」の指摘事項であった。

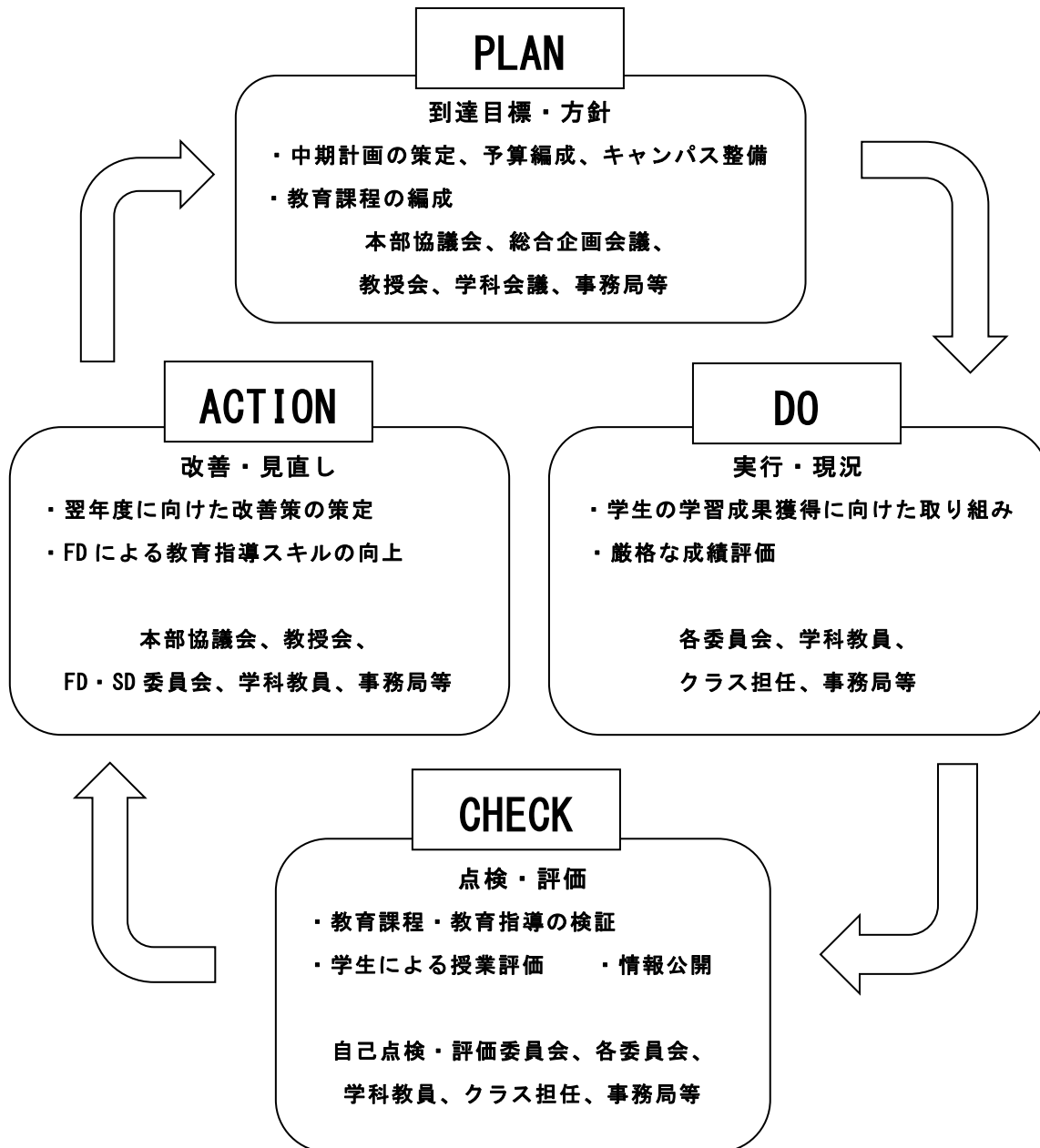


図 I-C-1 教育の向上・充実のための PDCA サイクル

対応として、平成 29 年度からのシラバスから、すべての教科目に対して、到達目標を 5 項目以内で分かりやすく表記するよう改善している。また、私立大学等改革総合支援事業における「教育の質的転換」の基準要件も参考に、毎年シラバスの項目内容を点検して改善に努めている。

(b) 今回の自己点検・評価の課題についての改善計画

本学は中期目標・計画のもと、毎年各部署が自主的に振り返りを行い、年度計画に反映するよう努めているが、短期大学評価企画 I R 室と各委員会との情報共有がさらに迅速に行える体制づくりを検討する。

【基準Ⅱ 教育課程と学生支援】

[テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程]

＜根拠資料＞

- 提出資料
- 1 学生便覧 授業概要 2020
 - 3 2021 学生募集要項
 - 4 愛知工科大学自動車短期大学学則
 - 5 ウェブサイト 在学生の方へ（学生便覧・授業概要）
<https://www.autjc.ac.jp/campuslife/handbook/>
 - 8 大学案内 2021
 - 10 ウェブサイト 情報公開（学修実態・学修時間、学修成果、単位取得の状況）
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/study_actual_conditions2020_jc.pdf
 - 12 2020 年度 愛知工科大学自動車短期大学 学年歴
- 備付資料
- 11 ウェブサイト（成績の分布状況）
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2021/07/bunpu_jc2020.pdf
 - 12 単位取得状況（令和2年度）
 - 14 オープンキャンパスガイド（2021年度）
 - 15 AUT自動車教育入門
 - 27 2020(令和2)年度 学生における授業評価アンケート
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/class_evaluation2019_jc.pdf
 - 28 2020(令和2)年度 卒業生の満足度調査
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/satisfaction_survey2019_jc.pdf
 - 30 成長振り返りシート
 - 31 自動車メーカーによる講演、技術講習会
 - 32a 職場体験実習報告【学生】
 - 32b 職場体験実習報告【企業】
 - 33 ウェブサイト（教育情報の公表）
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2021/02/publish-education_jc2020-1.pdf
 - 34 卒業生の就労実態等に関する調査
 - 35 2019 年度入試選抜制度の妥当性調査

[区分 基準Ⅱ-A-1 短期大学士の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を明確に示している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針は、それぞれの学習成果に対応している。
 - ① 学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針は、卒業の要件、成績評価の基準、資格取得の要件を明確に示している。
- (2) 学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針を定めている。
- (3) 学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針は、社会的・国際的に通用性がある。
- (4) 学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針を定期的に点検している。

<区分 基準Ⅱ-A-1 の現状>

卒業認定・学位授与の方針は、それぞれの学習成果に対応しており、学則(提出-4)第26条「卒業の要件」及び第27条「卒業及び学位授与」を明示し、授業科目の履修に関する規程第5条「卒業要件単位数」の中で卒業に必要な必修科目63単位及び選択科目から6単位以上、合わせて69単位以上を修得した者に対して、短期大学士(自動車工学)の学位を授与している。また、2020(令和2)年度より外国人留学生については選択科目の6単位のうち日本語等の選択必修科目から4単位以上修得することを追加した。成績評価においては、試験及び成績評価に関する規程第13条「成績区分」を明示している。情報の公開においては、学則や規程、学位認定の基準を本学ホームページ内の「在学生の方へ」(提出-5)及び学生便覧(提出-1)に掲載し学生へ周知している。学則第27条を具体化するために次のように卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を定めている。

愛知工科大学自動車短期大学の卒業に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

愛知工科大学自動車短期大学では、次のすべての能力を身につけた学生に対して、卒業の認定及び学位記を授与します。

1. 自動車整備士として活躍するために必要な知識・技術を修得している。
2. 豊かな人間性と正しい社会規範意識を持ち、周囲から信頼される素養を身につけている。
3. 円滑な人間関係が築けるコミュニケーション能力を有し、産業界に貢献できる可能性がある。

卒業認定・学位授与の方針は、自動車整備士としての知識・技術の習得、社会人として地域社会に貢献できる人材の育成等であり、自動車産業界が要請する人材を育成する内容になっている。本学は国土交通省の認定大学として、二級自動車整備士を養成する高等教育機関となっている。自動車産業に関する技術者を育成する中で、学生の

主たる就職先は自動車整備業界であり、二級自動車整備士資格は、この業界での仕事において必要不可欠なものとなっている。また、法的に自動車整備分解事業（指定整備工場、認証工場）での整備主任者や自動車検査員になるための前提資格となる。併せて、豊かな人間性と正しい社会規範意識を持ち、周囲から信頼される素養を身につけることを目指しており、これらは社会的・国際的に通用性がある。これらの達成度を向上するために、2年次において、夏期休暇期間中に就職内定企業に職場体験実習（備付-32）を実施している。なお、令和2年度は新型コロナウイルスの問題から職場体験実習は実施していない。

カリキュラム編成に関しては教務委員会、二級自動車整備士資格取得に関しては資格取得指導委員会、就職・学生指導に関しては学生生活指導委員会が中心となり、「卒業認定・学位授与の方針」を定期的に評価し、教授会にて審議、確認を行っている。令和2年度から入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の関連性を一層明確にするためにいずれも3項目に変更した。

[区分 基準Ⅱ-A-2 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を明確に示している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学科・専攻課程の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針に対応している。
- (2) 学科・専攻課程の教育課程を、短期大学設置基準にのっとり体系的に編成している。
 - ① 学科・専攻課程の学習成果に対応した、授業科目を編成している。
 - ② 単位の実質化を図り、年間又は学期において履修できる単位数の上限を定める努力をしている。
 - ③ 成績評価は学習成果の獲得を短期大学設置基準等にのっとり判定している。
 - ④ シラバスに必要な項目（学習成果、授業内容、準備学習の内容、授業時間数、成績評価の方法・基準、教科書・参考書等）を明示している。
 - ⑤ 通信による教育を行う学科・専攻課程の場合には印刷教材等による授業（添削等による指導を含む）、放送授業（添削等による指導を含む）、面接授業又はメディアを利用して行う授業の実施を適切に行っている。
- (3) 学科・専攻課程の教員を、経歴・業績を基に、短期大学設置基準の教員の資格にのっとり適切に配置している。
- (4) 学科・専攻課程の教育課程の見直しを定期的に行っている。

<区分 基準Ⅱ-A-2 の現状>

学科の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づいて作成し、シラバスにより各授業科目とディプロマ・ポリシーとの関連性を明確に示している。また、「短期大学設置基準」ならびに国土交通省の定める「自動車整備士養成

施設の指定等の基準（以下「指定基準」という）」に従って体系的に編成している。
 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を次のように定めている。

愛知工科大学自動車短期大学教育課程の編成及び実施の方針
 （カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーに掲げる到達目標を実現するために、次のようなカリキュラム（教育課程）を編成しています。

1. 自動車技術者に必要な科目の学習を通して、自動車工学や自動車整備に関する知識・技術の修得を支援するとともに、二級ガソリン及び二級ジーゼル自動車整備士の受験資格を得ることができます。
2. 基礎教養科目を通して基礎力を築き、セミナーなどを通してコミュニケーション能力と倫理心・社会性を身につけ、豊かな人間性を育成します。
3. グループ学習など能動的な授業によって学習意欲を喚起し、主体性及び協調性を養います。

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は、豊かな人間性を育成するため「基礎・教養科目」を配当し、また自動車整備技術を習得するため「専門科目」を配当している。授業科目の基本構成を表Ⅱ-A-1に、その教育課程一覧を表Ⅱ-A-2に示す。また、専門科目の大半は、二級自動車整備士登録試験の受験資格に関係しており、「指定基準」に準拠した二級自動車整備士の養成に関する科目（以下「認定科目」という）になっており、同省の定める規定に基づいた自動車整備技術修得のための科目編成になっている。

表Ⅱ-A-1 授業科目の基本構成

基礎・教養科目	基礎・教養科目では、人文、社会、自然科学などの科目を学習し、人間形成に活かす。また、科学技術英語を必要とする取扱い説明書、インターネット英語などに活用できるよう基礎的な英語を学習する。さらに、スポーツ科学、健康及び現代社会の健康問題をさまざまな事例を通して学習する。
専門科目	専門科目は、自動車工学・自動車整備に関係する分野・領域及びそれらと深く関係する工学分野を学習する。

表Ⅱ-A-2 自動車工業学科 教育課程一覧（令和2年度）

区分	科目 コード	授業科目	授業形態				単 位 数	履修スケジュール				
			講 義	演 習	実 習	実 技		1年		2年		
								前期	後期	前期	後期	
基礎・ 教養科目	A01001157	必修	AUT自動車教育入門	○			1	0.5				
	A06011104	必修	数学Ⅰ	○			2	1				
	A02002252	必修	キャリアデザイン	○			2		1			
	A05014103	必修	法学	○			2					1
	A06052153	必修	情報リテラシー	○			2		1			
	A05022147	選択	文章表現法	○			2		1			
	A06032206	選択	物理学	○			2		1			
	A06023205	選択	数学Ⅱ	○			2				1	
	A05013146	選択	ファイナンシャル・マネジメント	○			2				1	
	A05021150	選択	コミュニケーション講座	○			1	0.5				
	A05024254	選択	心と体の健康	○			2					1
	A04011107	選択	英語Ⅰ	○			2	1				
	A04012208	選択	英語Ⅱ	○			2		1			
	A04001158	留学生選択◆	日本語Ⅰ				2	1				
	A04001159	留学生選択◆	日本語Ⅱ				2		1			
	A04001160	留学生選択◆	日本語Ⅲ				2				1	
	A04001161	留学生選択◆	実用日本語				2					1
	A04001162	留学生選択◆	日本語文章作成技術演習				1	1				
	A03001110	必修 ^実	体育実技				○	1	1			
	A03002209	選択	保健体育講義	○			2		1			
専門科目	A11061111	必修*	工学基礎	○			2	1				
	A11071112	必修*	自動車工学概論	○			2	1				
	A12081216	必修*	ガソリン・エンジン工学	○			2	1				
	A12071218	必修*	自動車シャシⅠ	○			2	1				
	A11091124	必修*	自動車電気基礎	○			2	1				
	A12091225	必修*	自動車電装Ⅰ	○			2	1				
	A11041128	必修*	機械製図	○			○	1	1			
	A12082217	必修*	ジーゼル・エンジン工学	○			2		1			
	A12072219	必修*	自動車シャシⅡ	○			2		1			
	A12092226	必修*	自動車電装Ⅱ	○			2		1			
	A12103320	必修*	ガソリン・エンジン整備	○			2				1	
	A12073322	必修*	シャシ整備Ⅰ	○			2				1	
	A12043232	必修*	自動車材料	○			2				1	
	A12113233	必修*	自動車法規	○			2				1	
	A12103334	必修*	故障探究法	○			2				1	
	A12084321	必修*	ジーゼル・エンジン整備	○			2					1
	A12074323	必修*	シャシ整備Ⅱ	○			2					1
	A12114327	必修*	自動車検査	○			2					1
	A13051136	必修* ^実	自動車工学実習Ⅰ			○	5	8				
	A13052237	必修* ^実	自動車工学実習Ⅱ			○	4		8			
	A13053248	必修* ^実	自動車工学実習Ⅲ			○	5				8	
	A13054349	必修* ^実	自動車工学実習Ⅳ			○	4					8
	A13052231	選択	CADシステム	○			○	1		1		
	A12122156	選択	リテールマーケティング	○			2		1			
	A12103235	選択	カーエレクトロニクス	○			2				1	
	A12033315	選択	熱力学	○			2				1	
	A12053344	選択	自動車整備士対策講座		○		1				1	
	A12024313	選択	流体工学	○			2					1
	A12014314	選択	材料力学	○			2					1
	A12044330	選択	機械工作法	○			2					1
	A12104355	選択	EV・HV・PHV	○			2					1
	A13054341	選択	OMS		○		1					2
週あたりコマ数合計								21	20	19	20	

本学では、学生が主体的に学習できるよう、授業科目毎に関連するDP、到達目標、評価項目、評価比率を設け、それらの関連性を明確にシラバスに記載し、単位の実質化を図っている。また、1つの授業科目に対する教育効果を向上するための予習・復習を含めた学習の確保を考慮し、履修登録できる単位数の上限を設けるCAP制を導入し、年間48単位と定めている。ただしCAP制の導入に伴い、前期に登録した全ての履修科目の単位数を修得し、かつ履修登録した科目の平均点が80点以上あるいはGPAが2.5ポイント以上ある学生については、後期において上限単位数を超えて履修科目の登録を認めることとしている。

成績評価は、短期大学設置基準に則り、「試験及び成績評価に関する規程」により明確に定め、シラバスでその方法を示し、教育の質の保証に向けて厳格に適用している。第13条では、成績の段階（秀、優、良、可、不可）の基準を規定し、「学生便覧」（シラバス）に明記している。本学では、自動車工学や自動車整備に関する知識・技術を修得し、同時に技術者として不可欠な（意欲、人間性、能力）の三要件がバランスよく向上するよう教育を行うことを目的としているため、試験の成績だけでなく、受講態度、レポート、ワークシート等での総合評価を行っている。各科目の成績から学習状況を総合的に示す学生の成績評価値の1つとして平成27年度からGPA（Grade Point Average）を導入している。GPAは、各科目の成績評価と履修登録の総単位数を基に算出するもので、不合格となった科目や途中で履修放棄した科目も評価対象となる。したがって、安易な履修登録をすると、不合格や履修放棄によりGPAが低下する。これにより、計画的な履修登録を行い、履修登録科目数の自主規制を促し、成績不振の学生をいち早く発見及び指導することに取り組んでいる。さらに、奨学金候補者及び学生表彰の選考における参考データとして利用できるようにしている。2020（令和2）年度より履修登録の取消期間を設け、授業開始から5週目以降の定められた期間内に学務課へ届け出ることにより履修登録した選択科目を取り消すことができるようにしている。GPAは履修登録した科目毎の成績に対して表Ⅱ-A-3に定めるGP（Grade Point）を基に次の式により算出している。

$$GPA = \frac{(\text{履修登録した授業科目の単位数} \times \text{当該授業科目のGP})\text{の総和}}{\text{履修登録した授業科目の単位数の合計}}$$

表Ⅱ-A-3 評語に対するGP（Grade Point）

可否区分	素点	評語	GP
合格	100点～90点	秀	4
	89点～80点	優	3
	79点～70点	良	2
	69点～60点	可	1
不合格	59点以下	不可	0
	—	欠超	0
認定	—	認定	対象外

シラバスには授業の概要、到達目標、授業の内容、予習と復習で取り組む事項、予習時間、復習時間、教科書・参考書、成績評価方法、受講者への指示／メッセージを明示して学習成果があげられるよう配慮している。2020(令和2)年度からは成績評価方法をより明確にするため、評価区分、評価比率を明示している。また、シラバスの内容に変更が生じた場合は速やかに学生に通達し、シラバスの差し替えをし、周知している。

通信による教育を行う学科・専攻課程は有していない。

本学は国土交通省の認定大学であり、専門科目のうち特に二級認定科目の担当者については指定基準に適合した学科指導員、実習指導員を配置する必要があるため、表Ⅱ-A-4に示すように専門科目の専任率は高い。また、実務経験を有している教員であることが分かるようにシラバスに明示し、自動車整備の経験を持つ者には教員名に★印を記載し、5年以上の実務経験者には★★印をつけている。従って、担当科目については、教員の資格・経歴・業績を基にして、短期大学設置基準に則り適切に配置している。

表Ⅱ-A-4 専任教員の配置

年度	年次	基礎・教養科目			専門科目			科目全体			備考
		科目数	専任教員数	専任教員率%	科目数	専任教員数	専任教員率%	科目数	専任教員数	専任教員率%	
平成30	1	10	2.7	27	14	14	100	24	16.7	70	
	2	4	3	75	18	18	100	22	21	95	
	合計	14	5.7	41	32	32	100	46	37.7	82	
令和元	1	11	4.5	41	14	13.7	98	25	18.2	73	
	2	4	3	75	18	18	100	22	21	95	
	合計	15	7.5	50	32	31.7	99	47	39.2	83	
令和2	1	11(3)	4.5	41	14	13.7	98	25(3)	18.2	73	
	2	4(2)	3	75	18	18	100	22(2)	21	95	
	合計	15(5)	7.5	50	32	31.7	99	47(5)	39.2	83	

注) 平成30年度基礎・教養科目の専任教員1年次の専任教員数2.7は情報リテラシーが専任2名、兼任1名、であるため0.7の端数が生じている。

令和元年度及び令和2年度における基礎・教養科目の専任教員1年次の専任教員数4.5は情報リテラシーが専任1名、兼任1名、であるため0.5の端数が生じている。同様に、専門科目13.7はCADシステムが専任2名、兼任1名であるため0.7の端数が生じている。

※科目数における()内の数字は愛知工科大学工学部で開講している特別聴講生制度で外国人留学生が受講できる日本語等の科目の数を表している。

教育課程の見直しは教務委員会が中心となり、学生生活指導委員会、資格取得指導委員会、FD・SD委員会、各担任等からの意見を取り入れ、定期的に教育課程の見直し、対応策の審議が行われている。改訂案件は教授会において審議され、学長の承認を経て遅滞なく履行されている。

[区分 基準Ⅱ-A-3 教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、幅広く深い教養を培うよう編成している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 教養教育の内容と実施体制が確立している。
- (2) 教養教育と専門教育との関連が明確である。
- (3) 教養教育の効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。

<区分 基準Ⅱ-A-3 の現状>

本学では、豊かな人間性を育成する目的で、「人文、社会、自然科学、外国語、保健体育などの科目群から構成される「基礎・教養科目」を編成し、これらの科目を通して学習に必要な基礎学力の習得ができるようにしている。

基礎・教養教育科目は必修科目として6科目、選択科目として9科目を設置している。2020（令和2）年度からは外国人留学生のみが受講できる日本語等の選択必修科目を5科目追加した。授業形態は、講義科目、演習科目、実習科目、実技科目に区分している。各科目は授業担当の専任教員及び非常勤講師がシラバスを作成し、授業内容を明確に示している。基礎・教養教育科目のうち、「AUT自動車教育入門」、「数学Ⅰ」、「キャリアデザイン」、「法学」、「情報リテラシー」、「体育実技」の6科目を必修科目としている。このうち「AUT自動車教育入門」（備付-7）は2019（令和元）年度から、初年次教育をより一層充実させるために1年前期に必修科目として開講している。これは、大学生活を始めるに当たり、仲間を作りグループワークを通じてコミュニケーション能力や協調性を育むと共に自動車に対する自分の夢を再確認することにより学習意欲を喚起し、意欲と人間性を高めるための契機としている。「キャリアデザイン」では、実社会での整備職経験豊かな教員が中心（担任）になり、キャリアセンター職員が支援することで、自己分析・企業研究等を通して、働くことの意義を理解させている。「情報リテラシー」は、パソコンが操作できるだけでなく、それに付随した情報モラルの知識や常識を身に付けることを目標として、2019（令和元）年度より選択科目から必修科目に変更している。選択科目についても「コミュニケーション講座」や「文書表現法」などの体験型ワークを通して、他との対話や必要な国語力も身につけさせている。その他、機械工作の基礎となる「数学Ⅱ」、「物理学」なども配置し、専門教育と関連付けた教養教育の実施体制を確立している。また、2020（令和2）年度からは愛知工科大学工学部と特別聴講生制度を締結し、外国人留学生を対象に工学部で開講している「日本語1」、「日本語2」、「日本語3」、「日本語文章作成技術演習」、「実用日本語」を特別聴講生として受講できるようにしている。外国人留学生はこれらの日本語科目を選択必修科目とし、4単位以上修得することとしている。

教養教育と専門教育との関連については各科目間の関連性を意識して学べるように、学生便覧において学年別・科目別履修系統図（図Ⅱ-A-1）を掲載している。

教育課程の見直しは、授業評価アンケート（備付-27）を各学期の最終講義において、すべての科目に対して実施し、その集計結果を基に適宜内容を見直して授業改善に活用している。

1年前期		1年後期		2年前期		2年後期	
学科名	自動車工学実習Ⅰ	学科名	自動車工学実習Ⅱ	学科名	自動車工学実習Ⅲ	学科名	自動車工学実習Ⅳ
必・自動車工学概論	基礎実習 基礎1、基礎2、基礎3 安全作業、計測、工具の 取り扱い	必・自動車シャシⅡ	シャシB トランスミッション ディフレンシャル 構造・分解・組立・調整 タイヤ 調整・調整 走行性能試験	必・シャシ整備Ⅰ	シャシC オートマチックトランスミッション CVT、エキゾースト・ブレーキ エアブレーキ 構造・分解・組立・点検	必・シャシ整備Ⅱ	エンジンD ジーゼル・エンジン 構造・分解・組立 予熱装置 運転機
必・自動車シャシⅠ	シャシA 電動RCカーの製作 自動車の日常点検 油圧式ブレーキ 構造・分解・組立・調整		エンジンB ガソリンエンジン 構造・分解・組立・調整	必・自動車材料	シャシD スミアリング装置 クランクシャフト 構造・分解・組立・調整 サスペンション 点検・調整	必・ジーゼル・ エンジン整備	点検整備 乗用車、トラックの車検 点検・分解・組立・調整
必・ガソリン・ エンジン工学	エンジンA ガソリン・エンジン ローリ・エンジン 構造・分解・組立・調整		エンジンC ガソリン・エンジン電子制 御装置の組み 構造・分解・組立・点検 燃料装置 構造・分解・組立・点検	必・ガソリン・ エンジン整備	制御診断A 電子制御装置 点検・整備 トラブルシューティング	必・自動車検査	制御診断B シャシ電子制御装置 トラブルシューティング EV・HV・PHV 構造・分解・組立・点検 エアコン 構造・分解・点検
必・自動車電気基礎	電装 自動車の灯火装置 構造・分解・組立・点検 オルターネータ構造・作動	必・ジーゼル・ エンジン工学		必・故障探究法		選・EV・HV・PHV	
必・自動車電装Ⅰ		必・自動車電装Ⅱ		必・自動車法規			
必・機械製図		選・CADシステム		選・カーエレクトロ ニクス		選・材料力学	選・OMS 〔ワンモアセミナー〕 輸入車の車両構造研 究と整備
必・工学基礎		選・リテール・ マーケティング		選・熱力学		選・機械工作法	二輪自動車の研究と 整備 中型オートバイの 分解・組立・点検
		選・物理学		選・自動車整備士 対策講座		選・流体工学	ボデーリペア ・補修塗装作業 ものづくりの研究と 課題製作
選・英語Ⅰ		選・英語Ⅱ		選・ファイテンシヤル・ マネジメント		必・法学	
必・AUT自動車教育 入門	必・体育実技	選・保健体育講義	必・情報リテラシー				
選・コミュニケーション 講座		選・文章表現法	必・キャリアデザイン				
必・数学Ⅰ						選・心と体の健康	
留学生選・日本語文 章作成技術演習	留学生選・日本語1	留学生選・日本語2		選・数学Ⅱ			
				留学生選・日本語3			
						留学生選・実用日 本語	

図Ⅱ-A-1 自動車工業学科 学年別・科目別履修系統図

[区分 基準Ⅱ-A-4 教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、職業又は实际生活に必要な能力を育成するよう編成し、職業教育を実施している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学科・専攻課程の専門教育と教養教育を主体とする職業への接続を図る職業教育の実施体制が明確である。
- (2) 職業教育の効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。

<区分 基準Ⅱ-A-4 の現状>

本学は、国土交通省の定めた認定大学として「二級自動車整備士」の国家資格の取得を通して、自動車工学や自動車整備に関係する知識・技術を修得し、同時に技術者として必要不可欠な「意欲」「人間性」「能力」の三要素がバランスよく向上するよう教育を行うことを目的としている。自動車関連の専門科目はもとより、「意欲」「人間性」「能力」の教育として、初年次教育として「AUT自動車教育入門」を始めとする基礎・教養科目を配当している。将来大半の学生が関係する自動車産業界についての就職支援教育は「キャリアデザイン」、「文書表現法」、「コミュニケーション講座」等の授業が担っている。キャリアデザインの授業内では、自動車販売会社による「社会人としての在り方」や「CS（お客様満足度）の重要性」を学び、ビジネスマナー講座を通して、社会人になるためのマナーを身につけさせている。また、キャリアセンター所属の職

員及び担任が中心となり、入学直後に実施するフレッシュマンセミナーをはじめ、自動車メーカーによる講演や技術講習会（備付-31）、さらには内定先での職場体験を実施して自動車産業界との連携教育を行うことで、職業観が熟成できるようにしている。なお、令和2年度は新型コロナウイルスの問題からフレッシュマンセミナー、技術講習会及び職場体験実習は実施していない。

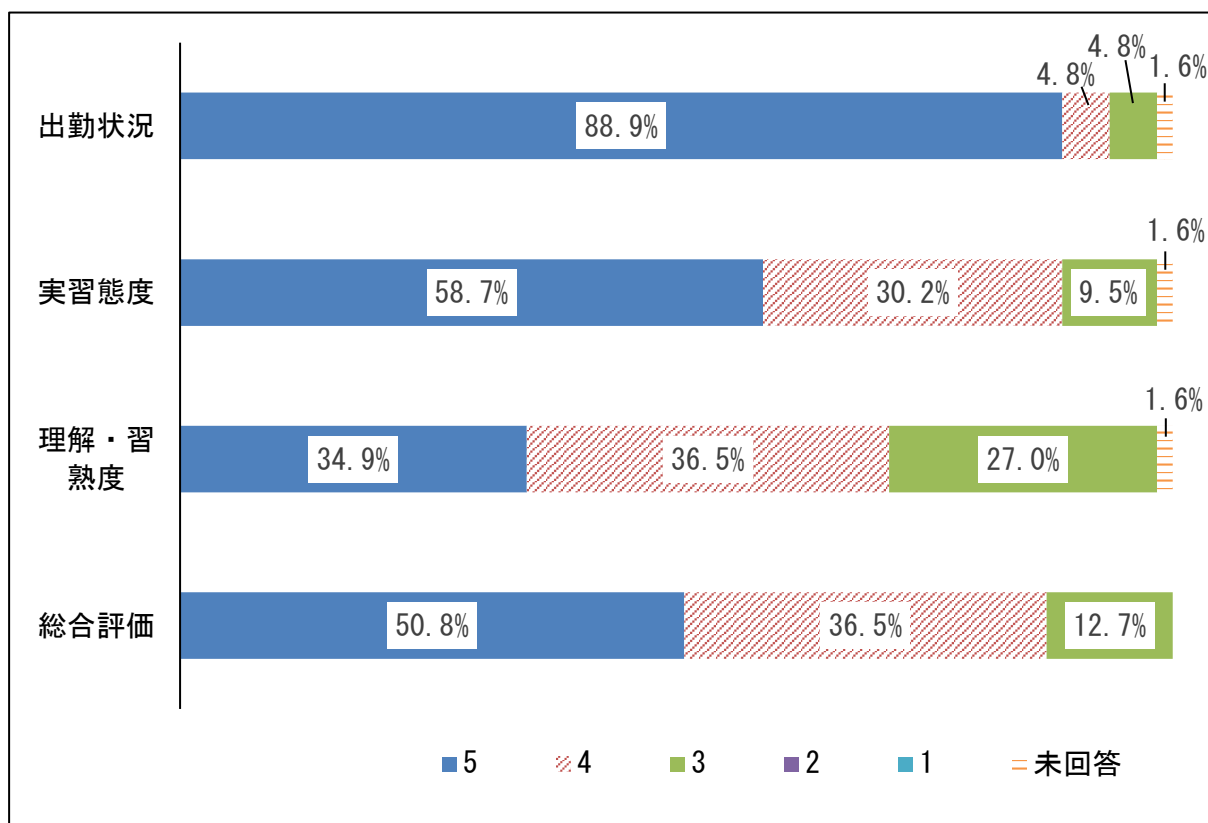
職業教育の効果の測定・評価は、内定先での「職場体験の学生評価」を企業によるアンケート調査（備付-32b）で行っている。アンケート結果総数については表Ⅱ-A-5に、割合、内訳については図Ⅱ-A-2に示す通りで、企業からの評価は好結果を得られている。一つには、内定先での職場体験ということもあり、企業側も人材を育てようとの思いもあると考えられる。企業サイドの指摘事項、アドバイス等の情報を基に、学生生活指導委員会及びキャリアセンターが適宜内容を見直し改善に取り組み次年度以降の活動に生かしている。

表Ⅱ-A-5 令和元年度職場体験の企業によるアンケート結果

	評 価（5段階）					未回答
	5	4	3	2	1	
	5	4	3	2	1	
	良い	普通	悪い			
評価点	5	4	3	2	1	未回答
出勤状況	56 (88.9%)	3 (4.8%)	3 (4.8%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1.6%)
実習態度	37 (58.7%)	19 (30.2%)	6 (9.5%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1.6%)
理解度・習熟度	22 (34.9%)	23 (36.5%)	17 (27.0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1.6%)
総合評価	32 (50.8%)	23 (36.5%)	8 (12.7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

*未回答には、未返信を含む

※職場体験実習受入社数 30社（63人） 評価返信社数 30社（62人）返信率 100%



図Ⅱ-A-2 令和元年度職場体験実習（企業評価）

[区分 基準Ⅱ-A-5 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を明確に示している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 入学者受入れの方針は学習成果に対応している。
- (2) 学生募集要項に入学者受入れの方針を明確に示している。
- (3) 入学者受入れの方針は、入学前の学習成果の把握・評価を明確に示している。
- (4) 入学者選抜の方法（推薦、一般、AO選抜等）は、入学者受入れの方針に対応している。
- (5) 高大接続の観点により、多様な選抜についてそれぞれの選考基準を設定して、公正かつ適正に実施している。
- (6) 授業料、その他入学に必要な経費を明示している。
- (7) アドミッション・オフィス等を整備している。
- (8) 受験の問い合わせなどに対して適切に対応している。
- (9) 入学者受入れの方針を高等学校関係者の意見も聴取して定期的に点検している。

<区分 基準Ⅱ-A-5の現状>

入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）は、教育目標及び卒業認定、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定める人材を育成するために必要とされる高等

学校等までに身につけておくべき学力、態度、意欲等を示しており、学習成果に対応している。学生募集要項（提出3）には、アドミッション・ポリシーのほか、建学の精神、教育指針、教育目標等を明確に示している。また、オープンキャンパス（備付-14）、進学相談会、高校訪問等を通じて、受験生、保護者、高校教員に説明を行い、ホームページ等でその方針を明確に示している。

入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）については、次のように示し、入学前の能力、基礎学力及び向上心の把握・評価は、学生募集要項（提出-3）に沿った入学試験によって行われている。

愛知工科大学自動車短期大学の入学者受け入れ方針
(アドミッション・ポリシー)

愛知工科大学自動車短期大学は、自動車技術を通して自らの心を磨き、高度な技術を習得して、大きな夢に挑戦することができる人を求めます。

1. 自動車に興味があり、自動車業界で活躍したい人
2. 社会的な秩序や規律をよく理解し、これを遵守できる倫理観を有する人
3. 幅広い人間関係を構築し、他者と協働する意欲を有する人

2021（令和2）年度からの学生募集要項には、教育目標達成に必要な総合力3要件と学力の3要素、選抜方法との関係を表Ⅱ-A-6のように示している。

入学者選抜方法は、各高校から出された調査書、推薦書、志望理由書、面接、筆記試験等によって総合的に選考している。本学のすべての入学選抜には、受験生との面接を重要視している。2020（令和2）年度から、学校推薦型選抜試験、総合型選抜試験において基礎学力試験（数学・国語）を実施している。いずれの入学試験においても、入学者受け入れ方針に基づいて、適性がある入学者の選抜を行っている。

各入学試験の選抜方法は、次のとおりである。

・学校推薦型選抜試験（指定校）は、入学を志願する者の適性をはかるため、基準とする評定平均値に該当し、さらに出身学校長の推薦があった者の中から、調査書、基礎学力試験、面接試験を通して総合的に選考している。

・学校推薦型選抜試験（一般・専門高校・女子特別）は、学習に強い意欲を持つ者を判定するため、調査書、推薦書、志望理由書、基礎学力試験、面接試験を通して総合的に選考している。

・総合型選抜試験（自己推薦）は、自動車工学に対する向学心を持つ者を判定するため、調査書、自己推薦書、基礎学力試験、面接試験を通して総合的に選考している。

・一般選抜試験（一般入学・大学入試共通テスト利用）は、入学者受け入れ方針に基づいた基礎学力と自動車に強い関心を持つ者を選考するため、調査書、学力試験、面接試験を通して総合的に選考している。

・社会人選抜試験は、多様な経験を持つ者の中で、自動車工学に対する向学心を持つ者を判定するため、調査書、自己推薦書、基礎学力試験、面接試験を通して総合的に選考している。

・総合型選抜試験（AO）は、受験生が本学での講義・実習とレポート作成、面接試験を通して、学力だけでは伝わらない自動車に対する熱意などを含めて多面的に選考している。

・外国人留学生入学試験は、面接試験（日本語による個人面接）、学力試験を行い、日本語能力や自動車に対する熱意などを含めて多面的に選考している。

以上のように入学者選抜はいずれの試験も公正かつ適正に実施している。各選抜試験の後は、速やかに入試判定会議を開催し、合否判定を行い学長が合否を決定している。授業料、その他入学に必要な経費は、入学案内、学生募集要項、ホームページに明示している。受験に対する問い合わせに対しては、入試広報課が適切に対応している。また、入試広報課が中心となって、年2回（6月、9月）高校訪問を実施している。その際、在学生の近況報告と合わせて、高等学校からの意見も聴取している。これらの情報は学内のイントラネットを通して教職員が常に情報共有できるようになっている。

表Ⅱ-A-6 教育目標達成に必要な総合力3要件と学力の3要素、選抜方法との関係

選抜方法	要件/要素	知識	技能	思考力	判断力	表現力	主体性	多様性	協調性	自己実現	向学心	勤労	誠実	協調性	社会性	教養	専門学力・技能	コミュニケーション力
		意欲			人間性			能力										
学力3要素	知識			◎	◎					○	○					○	○	○
	技能																○	
	思考力			◎	◎											○	○	
	判断力															○	○	○
	表現力															○		○
	主体性	◎		○												○		○
	多様性															○		○
教育目標「自立と夢の実現」の達成に必要な力	自己実現																	
	向学心																	
総合型選抜(AO)	課題			◎	◎												○	◎
	基礎学力															○		
	面接	◎	◎	◎	○	○	○	○	○									◎
	調査書	○	○	○	○	○	○	○	○									
総合型選抜(自己)	課題			◎	◎												○	◎
	基礎学力															○		
	面接	◎	◎	◎	○	○	○	○	○									◎
	調査書	○	○	○	○	○	○	○	○									
学校推薦型選抜	基礎学力															○		
	面接	◎	◎	◎	○	○	○	○	○									◎
	調査書	○	○	○	○	○	○	○	○									
	推薦書	○	○	○	○	○	○	○	○									
一般選抜	志望理由書	◎	○	○	○	○	○	○	○									
	学力試験			○	○											◎		
	面接	◎																
	調査書	○	○	○	○	○	○	○	○									○
大学入学共通テスト利用選抜	活動報告書	◎	○	○	○	○	○	○	○									
	学力試験			○	○											◎		
	面接	◎																
	調査書	○	○	○	○	○	○	○	○									○

※ ○は重視、◎は特に重視

[区分 基準Ⅱ-A-6 短期大学及び学科・専攻課程の学習成果は明確である。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学習成果に具体性がある。
- (2) 学習成果は一定期間内で獲得可能である。
- (3) 学習成果は測定可能である。

<区分 基準Ⅱ-A-6 の現状>

教育改善を図る目的で、学習成果を可視化し、3ポリシーに基づいて学修成果を測定・評価するための「学修成果の評価に関する方針（アセスメント・ポリシー）」を次のように定めている。

レベル	入学前・入学直後 アドミッション・ポリシーを満たす人材か	在学中 カリキュラム・ポリシーに則り学修が進められているか	卒業時・卒業後 ディプロマ・ポリシーを満たす人材になったか
機関(大学)レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・各種入学試験 ・基礎調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・退学率 ・留年率 ・休学率 	<ul style="list-style-type: none"> ・学位授与数 ・就職率 ・進学率 ・満足度調査 ・自動車整備士合格率
教育課程(学科)レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・ガイダンス ・個人調査(担任面談) ・有資格調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・進級率 ・成長アンケート ・単位取得状況(学科全体：教養、専門) ・資格取得状況調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業率 ・成長アンケート(2ヶ年の推移) ・資格取得状況
科目(個々の授業)レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・入学前学習(添削) ・素養試験(数学/工学基礎) 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケート ・成績評価(単位修得状況) 	/

測定・評価は、機関(大学)レベル、教育課程(学科)レベル、科目(個々の授業)レベルにおいて行うこととし、各レベルに応じた具体性のある指標を配置している。科目レベルの学習成果は、科目ごとにディプロマ・ポリシーと関連する3~5項目の到達目標を定めてシラバスに明記し、各到達目標に応じて成績の評価区分及び評価比率を示すことで、学生が具体的に取り組めるようにしている。学習成果としては、個々の成績評価や授業アンケート等で示すことができる。教育課程レベルの学習成果は、各学年での進級率、成長アンケート(備付-30)、単位取得状況等で測定可能である。機関レベルの学習成果は、退学率、留年率、卒業率、就職率、進学率、満足度調査等で測定可能であるが、特に自動車整備士資格の取得率は最重要指標となるものである。科目レベルは入学前・入学直後、在学中、教育課程レベル及び機関レベルは入学前・入学直

後、在学中、卒業時・卒業後の一定期間内での学修成果の獲得が可能である。

これらの学習成果はいずれも測定可能であり、各委員会を通じて評価され、最終的に教授会に報告される。年度毎の成果はエビデンスを基に評価企画 I R 室でまとめられている。

[区分 基準Ⅱ-A-7 学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをもっている。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) GPA 分布、単位取得率、学位取得率、資格試験や国家試験の合格率、学生の業績の集積（ポートフォリオ）、ルーブリック分布などを活用している。
- (2) 学生調査や学生による自己評価、同窓生・雇用者への調査、インターンシップや留学などへの参加率、大学編入学率、在籍率、卒業率、就職率などを活用している。
- (3) 学習成果を量的・質的データに基づき評価し、公表している。

<区分 基準Ⅱ-A-7 の現状>

学習成果を査定する方法として GPA 制度を導入し、その分布を単位取得状況と併せて算出している(備付-11、12)。単位取得率については各科目における GPA、履修者数、合格者数、不合格者数及び単位取得率の分析に活用している。学期末に学生に配布する成績通知書には卒業に必要な単位数、修得単位数、クラス順位、出欠状況に GPA を併記することで、学生がどの程度のレベルに到達しているかを把握できるようにし、Web ポータル上でも確認できるようにしている。保護者にも学生と同じ成績通知書を送付して、進捗状況を確認してもらっている。就職に関わる学校推薦、卒業時の表彰に関わる選考過程にも GPA を活用している。さらに、進級要件、退学勧告及び警告にも GPA を活用している。進級要件は必修科目の単位をすべて修得し、GPA が 0.75 以上の者としている。退学勧告については 2 年次を除き、年間の修得単位数が 16 単位未満あるいは GPA が 0.30 未満の者に学科長が退学を勧告している。警告については学習状況が次のいずれかの者に学期終わりに学科長から警告を与え、改善を促している。

ア 各学年各期終了時の修得単位

1 年前期終了時 必修科目単位未修得

1 年後期終了時 必修科目単位未修得または選択科目の修得単位数 2 単位未満

2 年前期終了時 必修科目単位未修得または選択科目の卒業要件単位未修得

イ 前期の GPA が学年の下位 4 分の 1 に属する場合

ウ 前期の出席率が 8 割以下である場合

学生の業績の集積（ポートフォリオ）については入学者選抜方式と中退者数、自動車整備士資格取得者数、進路決定者数、GPAとのクロス分析（備付-35）を定期的に行い、入学者選抜の妥当性の検証に活用している。また、各科目における受講態度やレポート等の評価についてはルーブリック分布を活用し、シラバスにて公表している。

学生には、「授業アンケート」を全科目対象に、前期1回・後期1回の年2回実施している。学期ごとに「授業評価」に関するアンケートを集計（備付-27）し、「学生自身の評価」No.1～5、「担当者の評価」No.6～10、「授業全体の評価」No.11～15をもとにグラフ化している。集計結果を通して授業評価を客観的かつ効率よく知ることができ、回答用紙の自由記述欄からは個々の学生の授業に対する意見や感想も分かり、次年度以降の授業改善のために活用している。

各委員会にて量的・質的データに基づき評価したものは学科会議にて教職員が共有することで教育内容についての検討に活用している。そして、評価したものはホームページの学修実態・学修時間、学修成果、単位取得の状況（提出-10）及び教育情報の公表（備付-33）で公表しており、「成績評価の分布」「学年別単位取得数合計」「取得単位の状況」などにより、学習成果を客観的に見ることができるようになっている。

【区分 基準Ⅱ-A-8 学生の卒業後評価への取り組みを行っている。】

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 卒業生の進路先からの評価を聴取している。
- (2) 聴取した結果を学習成果の点検に活用している。

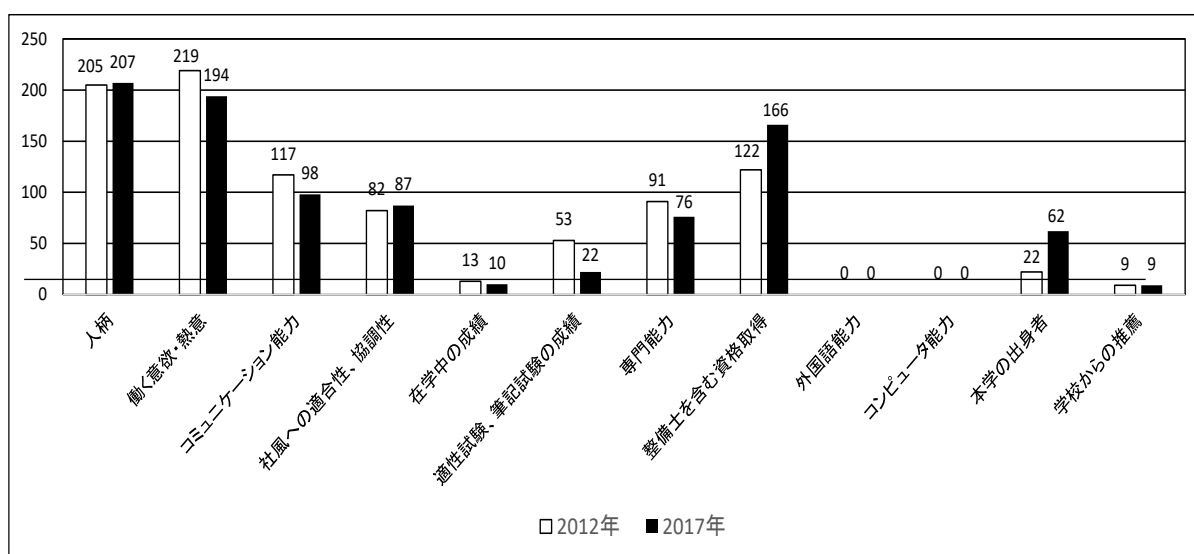
<区分 基準Ⅱ-A-8 の現状>

2012（平成24）年度から2016（平成28）年度までの5年間に採用があった企業125社を対象に、「卒業生の就労実態等に関する調査」（備付-34）を2017（平成27）年4月に実施し、67社（回収率54%）から回答を得ている。この調査は5年ごとに行っているものであり、前回は2007年度から2011年度の5年間の採用企業に対して行い、次回は2017年度から2021年度の5年間の採用企業に対し、2022年4月に行う予定である。本学の学生を採用した理由について、上位5つを選び「1位から5位まで」順位が付記されたものに対して、高い順位から「5点・4点・3点・2点・1点」のポイントを与えて集計している。その結果を表Ⅱ-A-6に示す。

これより、「人柄」、「働く意欲・熱意」、「資格取得」が上位を占め、「適性・筆記試験の成績」「在学中の成績」はウエイトが低く、面接による人物重視の採用試験が行われていることが伺える。「本学の出身者」であることは前回調査より増えており本学のブランド力が年々高まっていることが想像できる。

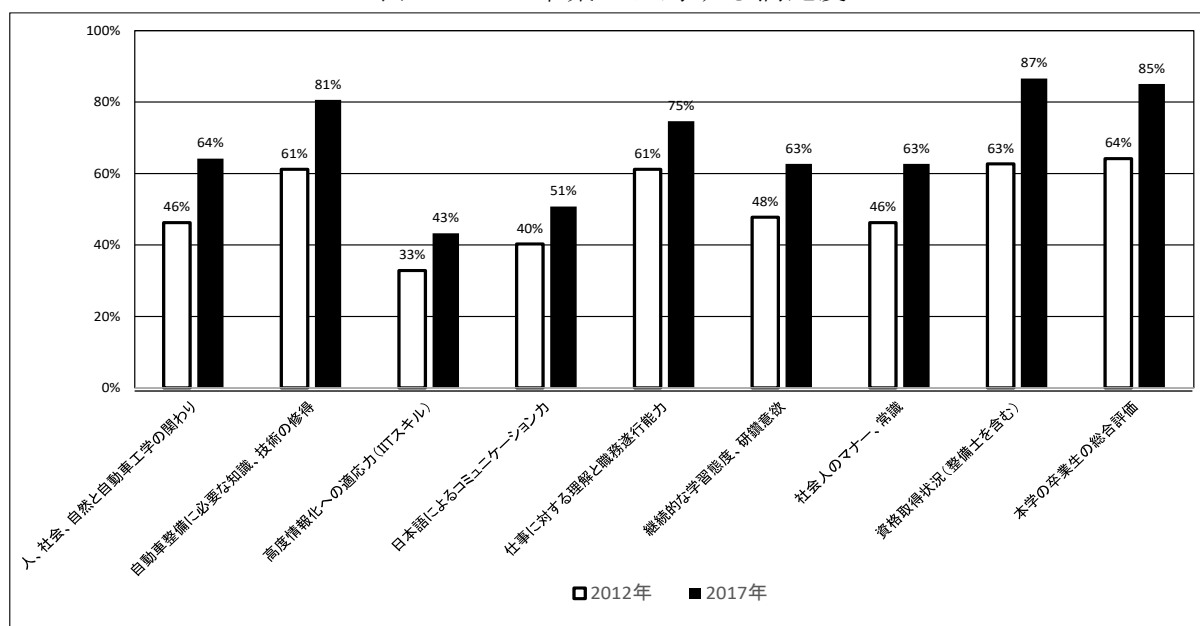
また、本学卒業生に対する満足度の評価については、「満足」「どちらかといえば満足」「普通」「どちらかといえば不満」「不満」の5段階で評価してもらい、「満足」及び「どちらかといえば満足」の合計を比率で表した。その結果を表Ⅱ-A-7に示す。

表 II -A-6 学生を採用した理由



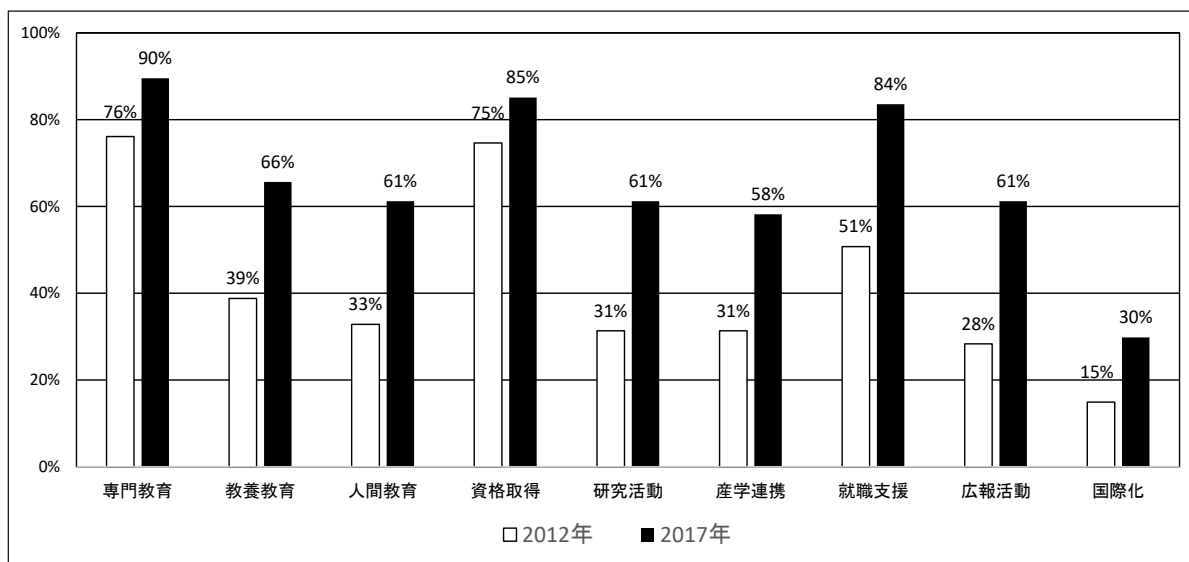
すべての項目において前回調査を上回り、「総合評価」は85%を得た。「資格取得」「整備知識・技術の修得」「仕事理解と職務遂行能力」で高得点が得られている。一方で、「高度情報化への適応力」「日本語によるコミュニケーション力」「社会人のマナー・常識」「継続的な学習態度、研鑽意欲」が比較的低い。これを受けて1年生入学当初からの導入教育を行う必要があると考え「社会人のマナー・常識」「継続的な学習態度、研鑽意欲」の涵養等を目的とし、2019年度より「AUT自動車教育入門」を導入している。また、「高度情報化への適応力」については2019年度より「情報リテラシー」を選択科目から必修科目とし、「日本語によるコミュニケーション力」の育成には選択科目である「文章表現法」を積極的に取得するように勧めている。

表 II -A-7 卒業生に対する満足度



さらに、本学の教育活動・学生支援に抱くイメージを、「優れている」「どちらかといえば優れている」「普通」「どちらかといえば劣る」「劣る」の5段階で評価してもらい、「優れている」及び「どちらかといえば優れている」の合計を比率で表した。その結果を表Ⅱ-A-8に示す。すべての項目において前回調査を上回った。「専門教育」「資格取得」「就職支援」で評価が高い。近年の留学生の入学など「国際化」については前回より向上したが依然低い状況である。

表Ⅱ-A-8 教育活動・学生支援に抱くイメージ



また、採用者側ではなく、卒業生による本学在学中の学習内容や学生支援に対する評価についての調査は、毎年行われる学内企業説明会に先輩社員として参加していただける卒業生には聞き取り調査を行い、また、キャリアデザインの授業内にて企画される「先輩社員との座談会」に参加いただいた卒業生に記入式のアンケートを実施している（備付-34）。また、座談会の内容も、社会人としての在り方や学生生活の上手な過ごし方など、在学生に対し非常に有益なアドバイスとなっている。これら聴取した結果は、改善に活用している。

<テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程の課題>

本学は自動車に搭載される電子制御に関する教育を進めるために、「自動車電装Ⅰ・Ⅱ」、「カーエレクトロニクス」、「EV・HV・PHV」などの座学科目に加え、「自動車電気基礎実習」、「自動車工学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」などの実習科目を各年次に配置し運用してきた。しかし、今後は自動運転やAIなどの技術教育についても必要なため、プログラミングや先進運転支援システムに関するエーミングなどの実習科目の導入が課題となる。

<テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程の特記事項>

本学はコロナ禍において円滑な遠隔授業への移行を果たすことができた。令和2年

度からの緊急事態宣言下の中、入学式を学生のみでの出席とし、内容を圧縮して実施した。前期オリエンテーションでは今後の方針を学生に周知し、その後、学内への立ち入りを禁止したが、それまでに問題なく履修登録が完了していたため、4月には直ちにレポート課題による予習期間が開始された。同時に、オンデマンドによる教材提供のために教員は初めての遠隔授業の準備に時間をさき、学生にできるだけわかりやすいようにと工夫を凝らしたコンテンツや資料を提供した。

他大学では遠隔授業の実施がうまくいかず、混乱をきたしたニュースが流れる中、本学は Google が提供する G suite の導入を令和元年度から導入していたこともプラス要因となり、混乱なく授業をスタートすることができた。その裏では、学長をトップとし、遠隔授業を円滑に実施するために教務委員会を中心に教育職員と事務職員との複数回のミーティングが重ねられ基本方針を定め、考えられうる課題まで事前に想定し詳細を決定した。なお、緊急事態宣言が解除されると、対面授業や ICT を活用した授業も実施され、最初は戸惑っていた学生も各授業をスムーズに受講することができた。

[テーマ 基準Ⅱ-B 学生支援]

<根拠資料>

- 提出資料
- 1 学生便覧 授業概要 2020
 - 3 2021 学生募集要項
 - 5 ウェブサイト 在学生の方へ（学生便覧・授業概要）
<https://www.autjc.ac.jp/campuslife/handbook/>
 - 8 大学案内 2021
 - 16 2021 学校推薦型選抜試験（指定校）学生募集要項
 - 17 2021 外国人留学生選抜試験学生募集要項
- 備付資料
- 9 ウェブサイト（卒業生からの意見聴取及びその対応）
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/obog_iken2019_jc.pdf
 - 25 教育・研究改善取組シート
 - 27 2020(令和2)年度 学生における授業評価アンケート
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/class_evaluation2019_jc.pdf
 - 28 2020(令和2)年度 卒業生の満足度調査
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/satisfaction_survey2019_jc.pdf
 - 35 卒業生の就業等に関する状況調査について
 - 36 入学手続き案内
 - 37 2021 年度入学生 特別指導問題
 - 38 2020 年度 オリエンテーション/ガイダンス実施要領
 - 39 学籍簿様式
 - 40 2018（平成30）年度 自動車工業学科進路一覧
 - 41 2019（令和元）年度 自動車工業学科進路一覧
 - 42 2020（令和2）年度 自動車工業学科進路一覧
 - 43 GPA 制度について
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/jc_gpa.pdf
 - 44 成績の分布状況
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2021/07/bunpu_jc2020.pdf
 - 45 科目履修生募集要項（社会人受け入れ）
 - 46 研修旅行
 - 47 愛知工科大学 愛知工科大学自動車短期大学紹介リーフレット
英語版、中国版、韓国版、ベトナム版
 - 48 基礎数学

- 49 新編 工学基礎
- 50 各教員による推薦図書を紹介
- 51 F D活動
- 52 S D活動
- 53 卒業式における保護者アンケート
- 54 短期大学 保護者アンケートによる満足度調査結果
- 55 A U T祭
- 56 工科大通信
- 57 校友会
- 58 ウェブサイト（奨学金について）
<https://www.autjc.ac.jp/campuslife/scholarship/>
- 59 企業奨学金制度
- 60 学生生活に関する調査報告
- 61 P Y E表彰制度
- 62 愛知工科大学技術後援会「愛技会」
- 63 2020 学内企業説明会 参加企業一覧
- 64 2021 大学院・工学部・短期大学 学内合同企業説明会
- 65 資格を取ろう
- 66 就職試験を迎えるプログラム
- 67 ウェブサイト（コーカ君）
<http://koukakun.com/>

備付資料-規定集 3 試験及び成績評価に関する規定

[区分 基準Ⅱ-B-1 学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 教員は、学習成果の獲得に向けて責任を果たしている。
 - ① 教員は、シラバスに示した成績評価基準により学習成果の獲得状況を評価している。
 - ② 教員は、学習成果の獲得状況を適切に把握している。
 - ③ 教員は、学生による授業評価を定期的に受けて、授業改善に活用している。
 - ④ 教員は、授業内容について授業担当者間での意思の疎通、協力・調整を図っている。
 - ⑤ 教員は、教育目的・目標の達成状況を把握・評価している。
 - ⑥ 教員は、学生に対して履修及び卒業に至る指導を行っている。
- (2) 事務職員は、学習成果の獲得に向けて責任を果たしている。
 - ① 事務職員は、所属部署の職務を通じて学習成果を認識して、学習成果の獲得に貢献している。
 - ② 事務職員は、所属部署の職務を通じて教育目的・目標の達成状況を把握している。

- ③ 事務職員は、所属部署の職務を通じて学生に対して履修及び卒業に至る支援を行っている。
- ④ 事務職員は、学生の成績記録を規程に基づき適切に保管している。
- (3) 教職員は、学習成果の獲得に向けて施設設備及び技術的資源を有効に活用している。
 - ① 図書館又は学習資源センター等の専門的職員は、学生の学習向上のために支援を行っている。
 - ② 教職員は、学生の図書館又は学習資源センター等の利便性を向上させている。
 - ③ 教職員は、学内のコンピュータを授業や大学運営に活用している。
 - ④ 教職員は、学生による学内 LAN 及びコンピュータの利用を促進し、適切に活用し、管理している。
 - ⑤ 教職員は、教育課程及び学生支援を充実させるために、コンピュータ利用技術の向上を図っている。

<区分 基準Ⅱ-B-1の現状>

成績評価については学生便覧（提出-1、5）の学則第21条（学習の評価）、試験及び成績評価に関する規程第13条（成績区分）に定めている。

<p>試験及び成績評価に関する規程</p> <p>（成績区分）</p> <p>第13条 成績の評価は次のとおりとし、可以上を合格とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 秀…100点～90点 2. 優… 89点～80点 3. 良… 79点～70点 4. 可… 69点～60点 5. 不可… 59点以下

教員は、シラバスに示した成績評価方法に基づいて学習成果の評価を行っている。各授業科目担当者は、定期試験（レポート試験含む）に加えて、通常授業内での参画状況、提出物や臨時試験なども十分に加味して、学習成果の獲得状況を評価している。

担任はWebポータル内の「履修情報」により、各科目担当者が入力した前日までの各学生の出席状況を確認できる。出席の状況によって学生の学習状況を把握し、適切な指導に活用している。学期末におけるクラスごとの成績状況については担任がチェックを行った後に保管している。また、Webポータル内の修学ポートフォリオには学生個々の「単位数集計」、「GPA」、「直近の学期の履修結果」、「修得成績」が掲載されており、必要に応じて教職員の閲覧も可能であり、担任以外の教員も各学生の学習状況を知ることができる。さらに、教員は単位取得状況、二級自動車整備士等の

各種資格取得状況、就職状況について学科会議の資料等で周知されており、学習成果の獲得状況を適切に把握している。

各学期末に「学生による授業評価」を実施しているが、質問項目は「あなた（学生）自身のことについて」、「授業担当者について」、「授業全体について」の3部構成になっている。授業評価の集計結果（備付-27）と回答用紙は学期ごとに学務課より担当教員に配付され、教員見解を記入後返却することになっている。授業評価集計結果を通して授業評価を客観的かつ効率よく知ることができ、回答用紙の自由記述欄からは個々の学生の授業に対する意見や感想も分かり、次年度以降の授業改善に活用している。授業評価を行ったすべての科目の授業評価結果と教員からの授業改善へのコメントはファイルにして図書館に置かれ、学生も閲覧可能である。

能力別のクラス分けを行う「数学Ⅰ」、「工学基礎」及び複数名の教員が授業を担当する「自動車工学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の授業内容について、新年度開始前の時期に教員打ち合わせ会を実施している。打ち合わせ会以外でも、普段から自動車棟教員室において教員同士での意思の疎通を図りながら指導方針や進度、学習成果について共通認識ができるようにしている。「自動車工学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」は各学期の授業内容を実習内容に合わせてそれぞれ3つに分割し、1つを1ショップと数え、1年前期では前期を前前期と前後期に分け、1日2コマを前前期では2日間、前後期では12日間、1年後期では12日間、2年前期では14日間、2年後期は12日間かけて1ショップずつ指導し、2年間で15ショップの実習を実施する。同科目は複数名で担当するため1ショップ後、科目担当者ごとに打ち合わせを行い各学生の評価、授業方法の改善点などについて恒常的に細やかな打ち合わせが行われている。また、1年前期開講の「数学Ⅰ」及び「工学基礎」については、前期終了後に教科書及び授業内容について毎年度、授業担当者間で協議し、意思の疎通、協力・調整を図っている。

それぞれの科目において、学生の学習成果から学科の教育目的や目標の達成度を把握し、評価している。年度初めに作成した「教育・研究改善取組シート」（備付-25）において教育改善を目標にした教員は教育の質の保証と向上に向けてのPDCAサイクルを実施し、年度末にその達成状況についてコメントと共に提出することで、授業改善に活用している。

入学時より機会あるごとに授業や行事で学生と接して、挨拶や言葉遣い、生活態度等の人間的な成長を見ており、日常生活などの状況から教育目的・目標の達成状況を把握している。学生が学習環境に適応し、スムーズな修学ができるよう、学生の相談相手となって勉学・学生生活など履修から卒業に至る指導・助言を与えるために2年間一貫してクラス担任制（1学年3クラス、1クラス約40名）を設けている。クラス担任は、入学早々にクラス学生全員と個人面談を実施し学生個々の性格、入学の動機、勉学意欲、基礎的能力、将来の希望等を早期に掌握し、修学、学生生活、進路など様々な相談相手となっている。日常的にはクラス担任が中心となり、履修登録も必ず担任がチェックしている。また、必要に応じて教職員との情報を交換することで、教育の効果の向上に繋げている。各学期のオリエンテーションが学生に対する履修説明の機会となっている。令和元年度からは初年次教育として「AUT自動車教育入門」を開講し、14名

～15名の学生に対し1名のアドバイザー教員をつけ、シラバスや履修条件、履修計画の立て方や資格取得支援体制、進路支援体制に関するアドバイスを通して履修及び卒業に至る指導を行っている。成績不振者に対しては、個人指導でアドバイスすると共に、平成30年度より、成績不振の学生をいち早く発見し、適切な指導を行うために、学生便覧（提出-1）の授業科目の履修に関する規程第16条の2（退学勧告）、第16条の3（警告）を定め、該当する学生について学科長から勧告または警告を与え、改善を促している。学生全体の履修状況は常に教員全員で共有されており、新年度には必要な申し送りを行う等、すべての教員がそれぞれの立場で個々の学生に対して履修及び卒業に至る指導をきめ細かく行っている。

所属部署の職務から学習成果への係わりが大きい部署は、学務課とキャリア支援課であり、次の通り学習成果の獲得に向けて貢献している。

◆学務課

成績の管理、履修等の相談、教育懇談会の開催、課外活動の支援、奨学金の相談、寮生の生活指導など

◆キャリア支援課

就職支援、各種資格取得支援など

事務職員は単位取得状況や二級自動車整備士等の各種資格試験の結果について、各種会議資料等で周知されており、学習成果を認識している。また、所属部署を問わず、窓口での応対や日常生活において入学時から学生と接しており、挨拶や言葉遣い、生活態度等の人間的な成長を通して学習成果の獲得に貢献している。学生の学習成果の状況については、教務委員会、資格取得指導委員会、学生生活指導委員会でも話し合いがされ、情報共有が必要な事項は学科会議及び教授会に報告される。本学の事務職員は、原則として教授会に陪席するため、教授会の審議・報告内容を通して学生の学習成果を認識している。また、教務委員会及び資格取得指導委員会は学務課から、学生生活指導委員会からはキャリア支援課から、入試広報委員会からは事務局から委員会に1名以上陪席し、主に、運用面でサポートすることで学習成果の獲得に貢献している。

教育目的・目標の達成状況においても、教授会の審議・報告内容を通して教職員間で共有、共通理解されるため、所属部署の職務を通じて把握することができる。

学務課及びキャリア支援課を中心として、履修及び卒業に至る適切な支援を行っている。各学期のオリエンテーションでは、教室の手配や履修に関する資料を準備配布している。オリエンテーションでの履修に関する説明では、教務委員長が行うが、キャリア支援課も同席して、説明のフォローを行っている。履修登録時において、学務課は担任と情報共有しながらチェックを行い、書類不備やサポートが必要な学生を担任に報告している。学務課は、学生の授業への出席状況を「Webポータル」上で更新し、指導が必要な学生について担任に注意を促している。「Webポータル」の情報は全教職員が把握することが可能であり、出席回数不足による定期試験の受験資格喪失を事

前に防止することで、卒業に至る支援を行っている。学務課では本学と愛知工科大学工学部との施設の利用状況に応じた調整が必要なため、自動車課とも協力連携しながら、学年歴及び時間割の作成支援を行っている。

学生の成績記録は学務課によって、適切に保管され、卒業後の成績証明書の請求にも適切に応えられている。また、入試に関する受験者の成績等は入試広報課によって、資格試験結果及び就職状況はキャリア支援課によって適切に保管されている。その他の記録についても、個人情報保護の観点から、保管と廃棄については十分注意をして行われている。

平成30年度より、スチューデント・アシスタント取扱規程（提出-1）を制定し、公募によって選ばれた本学学生が毎週水曜日の17時30分から19時00分まで図書館業務の学習相談、レポート作成のアドバイス、PCによる検索機、情報機器（プリンタを含む）、複写機の操作方法についてサポートできるようにした。このため、図書館の事務職員は現在、専任2名、スチューデント・アシスタント1名の計3名であり、開館時間中は、常駐できる体制を整えている。年度初めの新生生オリエンテーションでは図書館の利用ガイダンスを実施し、利用方法等を指導している。図書館からの情報提供は、図書館入口に掲示板を設けて、掲示のレイアウトに工夫を凝らして新刊書籍の表紙を掲示し、興味・関心を喚起している。学生に薦めたい書籍について平成26年度より科目内で各教員の推薦図書（備付-50）を紹介し、図書館利用への関心を高める試みを行っている。また、学生が求めている書籍に関する情報も愛知工科大学工学部と共同で運営している図書委員会で検討し購入することで、学習向上のための支援を行っている。

本学では、「自動車工学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」のテーマごとにレポート課題を課している。課題は教科書の内容だけに留まらず、多岐に亘って考察する必要があるため、図書館の活用を促している。また、自動車整備に関わる各自動車メーカーの整備要領書を図書館に配備することで、個々が所有する自動車の整備情報を補うことができるようになっている。平成27年度より、6号館の図書館閲覧室の利便性を向上させるために、配置を4分割にし、①ラーニングコモンズコーナー、②図書閲覧コーナー、③視聴覚コーナー、④新聞・雑誌コーナー（④のコーナーのみ缶及び蓋付の飲料を可とした）とし、全て談話を許可している。また、4号館の図書館閲覧室にもラーニングコモンズコーナー（談話可）と、図書閲覧コーナー（談話不可）があり、それぞれ閲覧等に適応した環境作りに努めている。

学内において、教職員全員に1台ずつパソコンが支給され、全員が授業や業務で活用できるパソコンスキルを獲得している。教室及び実習室には、専用のパソコンとプロジェクターを設置しており、動画、音声、スライドを用いた授業に活用している。最近では、タブレット端末の普及もあり、教員が自らタブレットを利用した授業を展開している。学生に対しては、パソコン実習室のデスクトップのパソコンを開放している。学生は、レポート課題に取り組み、調査、情報収集などに活用している。パソコン実習室がメディア基盤センター事務室の隣にあるため、学生からの利用に関する質問やパソコンの不具合には、随時職員が対応している。その他にキャリアセンター、図書館にデスクトップのパソコンが設置されており、すべてネットワークにつながっている。

る。それらを自由に利用でき、就職活動や授業に活用されている。

本学の必修科目に「情報リテラシー」がある。この科目は、個人のパソコンを使用するのではなく、学内のパソコン実習室またはLL教室のパソコンを利用している。その他として、2次元CADソフトウェアを利用した「CADシステム」の授業も開講し、コンピュータの利用を促進している。このように、学内のコンピュータを授業や大学運営に活用している。

自動車整備士資格取得のために本学独自のeラーニングシステムである「コーカくん」(備付-67)を活用している。「コーカくん」は、パソコン、携帯電話(スマートフォン含む)に対応し、過去に出題された自動車整備士登録試験問題を何度も繰り返し反復学習できるシステムである。また、問題だけに留まらず、教員による解説も備わっているために、多くの学生が利用している。「コーカくん」開設当初は自動車整備士登録試験問題サイトのみであったが、本学が推奨しているその他の資格取得にも対応できるように電気自動車等の整備の業務に係る特別教育、中古車査定士試験、ガス溶接試験の3講座を追加し、随時改良を続けて今日に至っている。「コーカくん」の主な取り組みを表Ⅱ-B-1に示す。このような取り組みを通じて、学生によるコンピュータの利用を促進し、適切に活用し、管理している。

表Ⅱ-B-1 「コーカくん」の変遷

平成 21 年度	<p>学生に最も身近で手軽なモバイルコンピュータとして使用されている携帯電話を利用し、いつでもどこでも気軽に自動車整備士試験の学習をさせるために平成 21 年に整備士試験問題サイト(携帯サイト)「コーカくん」を作成し学生に公開した。</p> <p>主な機能</p> <p>①年月により問題を検索し解答する機能</p> <p>②問題を分類別に検索して解答する機能</p>
平成 22 年度	<p>①前年度は問題に対する解説がなかったために、より理解度を深めるため問題解答後解説が表示される機能を追加した。そのため学科の教員の協力を得て問題解説を作成し公開した。</p> <p>②学生へ連絡事項を明示する連絡掲示板を作成した。</p>
平成 23 年度	<p>①自動車整備士試験問題サイトのシステムを応用して他の資格を学習できるシステムを作成しコーカくんを総合資格サイトとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低圧電気試験問題サイト ・中古車査定士試験問題サイト ・ガス溶接試験問題サイト ・危険物乙4試験問題サイト(未公開) <p>②スマートフォンの急激な普及に対しスマートフォンでもコーカくんが便利に行えるようにコーカくんスマホサイトの作成を行った。</p>

平成 24 年度	<p>①平成 23 年度に作成した「低圧電気試験問題サイト」「ガス溶接試験問題サイト」に問題を入力し学生に公開した。</p> <p>②PC にて学習を行えるようにコーカくん学生用 PC サイト（自動車整備士試験問題サイトのみ）を作成し公開した。PC 独自の機能としては問題を 40 問続けて行い採点できる「テスト」機能を追加した。</p> <p>③教員用のためのサイトを作成した。主な機能は問題の検索、学生の学習履歴の閲覧である。</p> <p>④コーカくん管理者用のサイトを作成した。主な機能は問題の管理と学生データの管理である。</p>
平成 25 年度	<p>①理解度を高めるために、難易度の高い問題に対しては解説動画を作成し学生に公開した。問題解答後に解説動画を閲覧できる仕組みとなっている。</p>
平成 26 年度	<p>①平成 23 年度に作成した「中古車査定士試験問題サイト」に問題を入力し学生に公開した。</p> <p>②解答した問題に対して「理解度」を記録する機能を追加した。（自動車整備士試験問題サイト）問題を検索する時などに活用できる。</p>
平成 27 年度	<p>①理解度の低い問題を選んで繰り返し学習できるように理解度検索の機能を追加した。（自動車整備士試験問題サイト）</p>
平成 28 年度	<p>①関連用語を入力することで目的の問題を抽出できるキーワード検索の機能を追加した。（自動車整備士試験問題サイト）</p>
平成 29 年度	<p>①スマホサイトと PC サイトを行き来できる機能を追加した。（自動車整備士試験問題サイト）</p> <p>②教員が学生情報を把握するために、テスト履歴を学生名で表示できるようにした。また、その日に行ったテスト結果を太字で確認できるように改善した。</p>
平成 30 年度	<p>①問題及び選択肢をランダムに出題できるようにし、選択肢も解説を紐づけできるようにした。（自動車整備士試験問題サイト）</p>
令和元年度	<p>①問題作成時に選択肢の入れ替えを、スムーズに行えるように改善した。</p> <p>②学生が問題を解答したとき、ランダムで解いたのかを分かるようにした。（自動車整備士試験問題サイト）</p>
令和 2 年度	<p>電気自動車等の整備の業務に係る特別教育問題サイト、中古車査定士試験問題サイト、ガス溶接試験問題サイト、危険物乙 4 試験問題サイトについてスマホ対応に変更した。</p>

各教職員は、それぞれの業務、教育課程及び学生支援を充実させるために、コンピュータ利用技術の向上を図っている。FD・SD委員会が中心となったFD活動の一つとして、平成25年度から関連した科目の連携を深め、より効果的な学習成果を得ることを目的として、下記の5つの専門分野ごとの分科会活動を定期的に行っている。

専門分野 エンジン系、シャシ系、電装系、点検整備系、基礎教育系

その分科会の内容は議事録（備付-51）として保存し、その内容について学科内でも共有している。また、愛知工科大学工学部との共同も含めて平成30～令和元年度は、表II-B-2のFD研修会を開催した。

表II-B-2 FD研修会の概要

年度	開催日	演題	講師
平成30年度	平成30年 5月15日	相互研鑽による大学教育の飛躍をめざして	愛知工科大学 田川 和義、 高橋 亮
		初年次教育のコア・カリキュラムを考える	愛知工科大学 村上 新
		学士課程教育の質保証	愛知工科大学 杉浦 伸明
		高次の能力を捉えるための評価	愛知工科大学 村上 新
		学生のパフォーマンス評価を考える	愛知工科大学 杉浦 伸明
		FDのこれまでと、これから	愛知工科大学自動車短期大学 掛布 知仁
		サイエンスリテラシーを養う横断型プログラムのデザインと運用	愛知工科大学 渡部 吉規
		リベラルアーツ教育の展望	愛知工科大学 高橋 義則
年度	開催日	演題	講師
平成30年度	平成30年 7月24日	OKIのデジタル変革 (IoT) の取り組み	沖電気工業(株) 藤原雄彦

	平成30年 8月31日	主体的に学習が出来る学生を育成するために～大学生基礎力レポートの結果から、1・2年生の特徴と課題を共有する～	(株)ベネッセ i-キャリア
令和元年 令和元年度	令和元年 8月30日	2019年度学年別基礎力調査の結果報告	(株)ベネッセ i-キャリア
	令和元年 9月10日	理工系コーオプ／インターンシップ教育における学生、企業人、大学職員の協働と成長	愛知工科大学 村上 新
		学生エンゲージメントと自立を促す支援としかけ～学生に関わる専門職の立場から～	愛知工科大学 米田 守重
		アクティブ・ラーニングを推進するための検討会－小・中学校で行われている授業体験と大学における主体的・協働的な授業－	愛知工科大学 大迫 尚行
		特別支援学校教員における主体的な学修と地域連携の在り方について	愛知工科大学自動車短期大学 服部 幸廣
令和2年度	令和2年 9月30日	大学生基礎力レポートの結果による1・2年生の特徴と課題	(株)ベネッセ i-キャリア

また、表Ⅱ-B-3に示すように学園本部主催の教職員研修会にも学生支援を充実させる講習やコンピュータの利用技術を向上する講習が開講されており、個々のスキルレベルにあわせて参加しスキルアップを目指している。なお、令和2年度は新型コロナウイルスの問題から教職員研修会を実施していない。

表Ⅱ-B-3 教職員研修会の概要（学園本部主催）

年度	開催日	タイトル	講師	
平成30年度	平成30年 8月1日	事務担当者研修	電波学園	
	平成30年 8月2日	等級別研修（4等級）及び事務責任者研修メンバーが生き活きと活動できるこれからの組織創り	TEAM-VISION	
		広報研修	(株)リクルートマーケティングパートナーズ	
		Illustrator（初級編）	電波学園	
		アングーマネジメント研修	一般財団法人日本経営協会	
		クレーム対応	(株)インソース	
		ライフプラン作成研修 1	日本生命	
		ライフプラン作成研修 2	第一生命	
		生涯設計セミナー（生命保険の種類および加入の考え方） 1	日本生命	
		生涯設計セミナー（生命保険の種類および加入の考え方） 2	第一生命	
		生涯設計セミナー（住宅ローン制度）	三菱UFJ銀行	
		相続の基本	三菱UFJ信託銀行	
		介護入門講座	日本生命	
		生涯設計セミナー（リタイアメント）	第一生命	
		確定拠出年金（DC）まるわかり研修	日本生命	
		平成30年 8月3日	等級別研修（5・6等級）提案手法について	(株)リクルートマーケティングパートナーズ
			メンタルヘルス研修「青年期のこころの不調～対処の工夫」	電波学園
	メンタルヘルス研修「こころの不調と不登校・問題行動への対応」		電波学園	
	タイムマネジメント研修		(株)インソース	
	資産運用研修		野村証券	
	ライフプラン作成研修		第一生命	
	生涯設計セミナー（生命保険の種類および加入の考え方） 1		日本生命	

年度	開催日	タイトル	講師
平成30年度	平成30年 8月3日	生涯設計セミナー（生命保険の種類および加入の考え方） 2	第一生命
		相続の基本	三菱UFJ信託銀行
		介護入門講座	日本生命
		確定拠出年金（DC）まるわかり研修	日本生命
	平成30年 12月26日	等級別研修（4等級）メンバーが生き活きと活動できるこれからの組織創り	TEAM-VISION
		等級別研修（5・6等級）提案手法について	㈱リクルートマーケティングパートナーズ
		高専・高大接続改革を見据えた新たな学びの展望	㈱リクルートマーケティングパートナーズ
		Illustrator（イラストレータ）中級編	名古屋工学院専門学校 山田慎、土岐
		スマホを利用した視聴覚資料作成と広報活動への活用（初心者向け）	名古屋工学院専門学校 梅村、富田
		メンタルヘルス研修	臨床心理士 宇土
		ライフプラン作成研修 1	第一生命
		ライフプラン作成研修 2（リタイアメント）	第一生命
		生命保険について学びましょう	第一生命
		失敗事例に学ぶ わが家の相続対策	三菱UFJ信託銀行
		「NISA・つみたてNISA」完全攻略法	三菱UFJ国際投信
		日本発の未来技術について	野村証券
		失敗しないための終活	鎌倉新書 野村証券
		コミュニケーション研修	㈲LIBRA
		プレゼンテーション研修	㈲LIBRA

年度	開催日	タイトル	講師
令和元年度	令和元年 8月20日	VR/ARの最前線と社会応用の可能性	愛知工科大学 板宮
		「自動車の今後の動向」について	愛知工科大学 梶谷、荒川
		退学防止研修	(株)学び
		教育ドキュメンタリー映画「Most Likely to Succeed」と共に学ぶ	TEAM-VISION
		企画力研修	(株)インソース
		在学生を活用した魅力あるオープンキャンパス作り	(株)リクルートマーケティングパートナーズ
		確定拠出型年金 (DC) まるわかり研修	日本生命
		ライフプランセミナー～充実したより豊かな人生・夢・希望の実現に向けて～	第一生命
		教えて！極めびと～お金の寿命の延ばし方～	三菱UFJ国際投信(株)
	令和元年 8月21日	講演『やってみなきゃわかんないっしょ』	株式会社タイム
		高等課程教員研修	電波学園 山口、原
		教員SNS利用ポリシー研修	(株)かもおん
		在学生を活用した魅力あるオープンキャンパス作り	(株)リクルートマーケティングパートナーズ
		日本発未来技術についてⅡ	野村証券
		リテールテック～無人店舗の普及シナリオ～	野村リサーチ・アンド・アドバイザリー-野村証券
ライフプランセミナー～充実したより豊かな人生・夢・希望の実現に向けて～	第一生命		

年度	開催日	タイトル	講師
令和元年度	令和元年 12月23日	アクティブラーニング研修	(株)学び (株)かもおん
		教育ドキュメンタリー映画「Most Likely to Succeed」と共に学ぶ	TEAM-VISION
		アンガーマネジメント研修	一般社団法人日本経営協会
		ワンペーパー資料作成研修	(株)インソース
		来校者満足度の高い参加したくなるオープンキャンパス作り	(株)リクルートマーケティングパートナーズ
		「思いを伝える」コミュニケーションセミナー	アドシンク(株)
		コーチング研修	アドシンク(株)
		日本発未来技術についてⅡ	野村証券
		確定拠出型年金(DC)まるわかり研修	日本生命
		ライフプランセミナー～充実したより豊かな人生・夢・希望の実現に向けて～	第一生命
		教えて！極めびと～お金の寿命の延ばし方～	三菱UFJ銀行

[区分 基準Ⅱ-B-2 学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 入学手続者に対し入学までに授業や学生生活についての情報を提供している。
- (2) 入学者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーション等を行っている。
- (3) 学習成果の獲得に向けて、学習の動機付けに焦点を合わせた学習の方法や科目の選択のためのガイダンス等を行っている。
- (4) 学習成果の獲得に向けて、学生便覧等、学習支援のための印刷物（ウェブサイトを含む）を発行している。
- (5) 学習成果の獲得に向けて、基礎学力が不足する学生に対し補習授業等を行っている。
- (6) 学習成果の獲得に向けて、学習上の悩みなどの相談にのり、適切な指導助言を行う体制を整備している。

- (7) 学習成果の獲得に向けて、通信による教育を行う学科・専攻課程の場合には、添削等による指導の学習支援の体制を整備している。
- (8) 学習成果の獲得に向けて、進度の速い学生や優秀な学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っている。
- (9) 必要に応じて学習成果の獲得に向けて、留学生の受入れ及び留学生の派遣（長期・短期）を行っている。
- (10) 学習成果の獲得状況の量的・質的データに基づき学習支援方を点検している。

<区分 基準Ⅱ-B-2の現状>

入学手続き者に対して、「入学手続き案内」（備付-36）を送付し、入学前のスケジュールや入学前に取り組むことを推奨する自動車に関連の深い科目を紹介し、入学式、入学直後の予定などを知らせている。

入学試験の面接の中で数学の口頭試問を行い、学習支援が必要であると判断した者に対しては入学前に数学の通信添削指導（備付-37）を行っている。令和2年度からは面接とは別に基礎学力試験を設け、数学、理科、国語についても調査し、入学前の通信添削指導を行っている。

入学後の学内オリエンテーション（備付-38）では、学生生活に関すること、資格・免許状取得に関することや実習について、カリキュラムと単位の意味や時間割、卒業要件などの履修説明、学生相談室の紹介と利用方法などについての説明を行っている。内容によって学年全体やクラスごとに実施し、共通での情報提供をクラスでもフォローできるようにしている。

各学期初めのオリエンテーション（備付-38）において、学習の動機付けに焦点を合わせた学習の方法や科目の選択など、学修全般について説明を実施している。

学習支援のための印刷物として、教育目標・方針、履修方法、授業概要（シラバス）、学生生活全般にわたる支援事項等が記載されている学生便覧（提出-1）を発行している。なお、学生便覧はホームページでも閲覧できるようにしている。

入学時に実施する数学と工学基礎の素養試験により「数学Ⅰ」と「工学基礎」の2科目は習熟度別の各5グループ編成（令和2年度からは4グループ編成）とし、各々のレベルに適した授業内容としている。また、「数学Ⅰ」では4回の習熟度確認のための臨時試験を実施し、習熟度の低い成績不振者に補習授業を行い基礎学力の向上を図っている。なお、「数学Ⅰ」と「工学基礎」は科目担当者が中心となり3段階の難易度別の練習問題を取り入れた独自のテキスト（備付-48、49）を作成し、出身高校での学習内容の違いや個々の習熟度に対応できるように配慮している。

クラス担任制度及びオフィスアワーにより学生個々の修学上の悩みなどの相談にのり、生活・学習・進路指導をきめ細かく行っている。また、学生相談室には臨床心理士が常駐し、学習面以外の相談にも対応し、心のサポートを行っている。

本学は、通信による教育は行っていない。

自動車工学実習関係については、経験ある専門担当者が対応し、実習中あるいは授

業後に指導を受けられるように対応している。授業内容を教材や進度で段階的に修得できるように工夫し、学生の反応を考慮しながら、進度の早い学生や優秀な学生にも対応できるよう学生レベルに応じて配慮している。

4年制大学編入を目指す学生に対しては、「英語Ⅱ」「数学Ⅱ」「物理学」「材料力学」「熱力学」「流体力学」等、4年制大学工学部への編入に役立つ教養科目と機械系科目を選択科目として設定している。

留学生対象の入学試験を平成25年度より実施しているが、令和2年度までの入学者数を表Ⅱ-B-4に示す。留学生への学習面、生活面での対応は担任、学務課等で行っているのが現状で、留学生を支援するための特別な組織はない。なお、平成26年度より短期留学生の派遣・受入を検討するための国際交流センター委員会を愛知工科大学と共同で開催している。

表Ⅱ-B-4 留学生の入学者数

年度	留学生の出身国名	入学者数
平成30年度	ベトナム	1
	中国	2
	ネパール	1
令和元年度	ベトナム	2
	中国	2
令和2年度	ベトナム	7

学習成果の量的データとして成績（備付-44）やG P A（備付-43）を活用し、学習支援方を点検している。質的データについては授業科目の満足度を半期ごとの「授業評価アンケート」（備付-27）で調査し、さらに、2年間全体の「満足度調査」（備付-28）を卒業時に実施することで、学習支援方を点検している。令和2年度満足度調査の質問内容と集計結果を表Ⅱ-B-5、6に示す。また、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた質問内容別満足度を令和2年度までの5年間集計した結果を表Ⅱ-B-7及び図Ⅱ-B-2に示す。学習支援に直接関係する質問は「③カリキュラムはどうか、④学習指導はどうか、⑤資格取得指導はどうか、⑦自動車の実習施設はどうか」であるが、いずれも満足度が9割以上を占めている点から学習支援に対する質的評価は概ね良いものと判断している。

また、別の観点から、平成28年度より卒業式に参加していただいた保護者に対して、本学に対する満足度調査（備付-53、54）を実施している。なお、令和元年度及び令和2年度はコロナウイルスの問題で保護者の卒業式への参加をお断りしたため、実施していない。平成30年度の意見であるが、「大変満足している」「満足」が10割を占めていることから、保護者からの評価としても良いものと受けとめている。アンケート内容については表Ⅱ-B-8に、結果については図Ⅱ-B-3に示す。今後もこの調査を続け、教育活動、学生支援に反映していきたいと考えている。

表Ⅱ-B-5 令和2年度 満足度アンケート質問内容

質問内容	回答
①2年間の学生生活はどうでしたか。	1 満足 2 どちらかといえば満足 3 どちらかといえば不満 4 不満 5 該当なし
②本学に入学してどうでしたか。	
③カリキュラムはどうでしたか。 (カリキュラムとは、2年間で学習する科目、および科目配列)	
④学習指導はどうでしたか。	
⑤資格取得指導はどうでしたか。	
⑥進路(就職・進学)指導はどうでしたか。	
⑦自動車の実習施設はどうでしたか。	
⑧図書館はどうでしたか。	
⑨学生食堂・売店はどうでしたか。	
⑩その他の施設設備はどうでしたか。	
⑪各窓口業務の教職員の指導姿勢や態度はどうでしたか。	
⑫課外活動(クラブ・同好会)の支援はどうでしたか。	

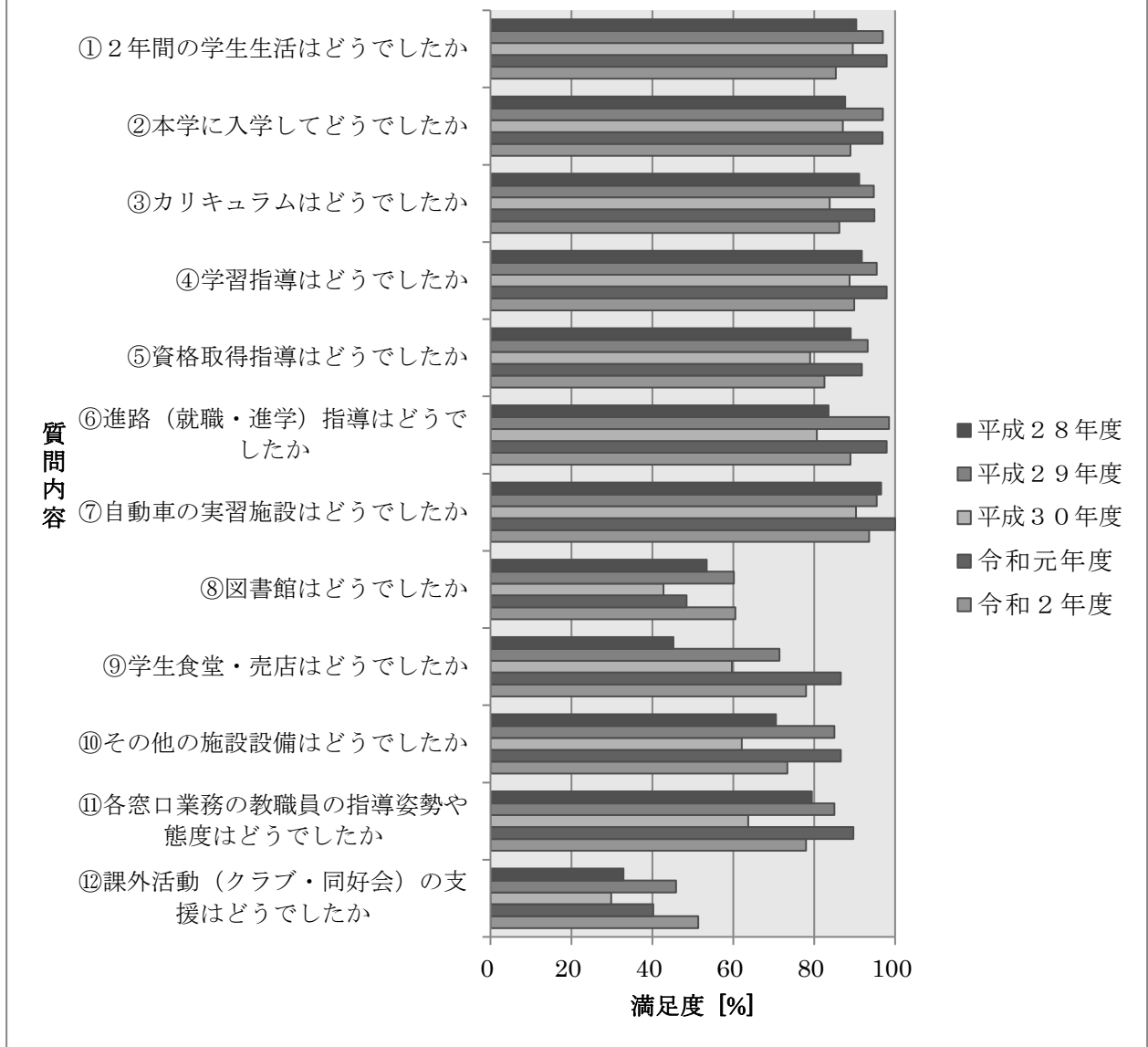
表Ⅱ-B-6 令和2年度 満足度アンケート調査結果

質問 回答	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
1 [%]	53.2	49.5	37.6	43.1	44.0	52.3	62.4	26.6	44.0	35.8	38.5	27.5
2 [%]	32.1	39.4	48.6	46.8	38.5	36.7	31.2	33.9	33.9	37.6	39.4	23.9
3 [%]	10.1	5.5	10.1	6.4	8.3	7.3	3.7	4.6	7.3	7.3	9.2	2.8
4 [%]	4.6	5.5	3.7	3.7	4.6	3.7	2.8	3.7	7.3	5.5	4.6	8.3
5 [%]	0.0	0.0	0.0	0.0	4.6	0.0	0.0	31.2	7.3	13.8	8.3	37.6
空白 [%]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

表Ⅱ-B-7 質問内容別満足度（満足＋どちらかといえば満足）

質問内容	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
①2年間の学生生活はどうでしたか	90.4%	97.0%	89.5%	97.9%	85.3%
②本学に入学してどうでしたか	87.7%	97.0%	87.1%	96.9%	89.0%
③カリキュラムはどうでしたか	91.1%	94.7%	83.9%	94.8%	86.2%
④学習指導はどうでしたか	91.8%	95.5%	88.7%	97.9%	89.9%
⑤資格取得指導はどうでしたか	89.0%	93.2%	79.0%	91.8%	82.6%
⑥進路（就職・進学）指導はどうでしたか	83.6%	98.5%	80.6%	97.9%	89.0%
⑦自動車の実習施設はどうでしたか	96.6%	95.5%	90.3%	100.0%	93.6%
⑧図書館はどうでしたか	53.4%	60.2%	42.7%	48.5%	60.6%
⑨学生食堂・売店はどうでしたか	45.2%	71.4%	59.7%	86.6%	78.0%
⑩その他の施設設備はどうでしたか	70.5%	85.0%	62.1%	86.6%	73.4%
⑪各窓口業務の教職員の指導姿勢や態度はどうでしたか	79.5%	85.0%	63.7%	89.7%	78.0%
⑫課外活動（クラブ・同好会）の支援はどうでしたか	32.9%	45.9%	29.8%	40.2%	51.4%

質問内容別満足度



図Ⅱ-B-2 質問内容別満足度（満足+どちらかといえば満足）

表Ⅱ-B-8 保護者アンケート



平成 年 月 日

卒業式における保護者アンケート

ご卒業おめでとうございます。お子さまにおかれましては本学における教育を修了され、卒業証書を手になさる日が始まりましたことを心よりお祝い申し上げます。

本学では、保護者の皆様からのご意見を頂き、今後の教育活動や学生募集活動に反映したく考えております。ご協力のほど、よろしく願いたします。



問1 お子さまが卒業される学科は

- | | | | |
|---------------|--------------|-----------------|-------------|
| 愛知工科大学 | 1. 機械システム工学科 | 2. 電子制御・ロボット工学科 | 3. 情報メディア学科 |
| 愛知工科大学自動車短期大学 | 4. 自動車工業学科 | | |
| 愛知工科大学大学院 | 5. 前期課程 | 6. 後期課程 | |

問2 お子さまが卒業されるにあたり、本学への満足度をお答えください

- ①教育に対する満足度は
5. たいへん満足 4. 満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. 不満 0. わからない
- ②設備に対する満足度は
5. たいへん満足 4. 満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. 不満 0. わからない
- ③資格取得、技術修得に対する満足度は
5. たいへん満足 4. 満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. 不満 0. わからない
- ④卒業後の進路（就職先や進学先）についての満足度は
5. たいへん満足 4. 満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. 不満 0. わからない
- ⑤本学へ進学させたことに対して
5. とてもよかった 4. よかった 3. どちらともいえない 2. あまりよくなかった 1. よくなかった 0. わからない

問3 お子さまや保護者に対する教職員のサポートについての満足度をお答えください

- ①入学前の教職員の対応（入学相談、オープンキャンパス、入試対応など）に対する満足度は
5. たいへん満足 4. 満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. 不満 0. わからない
- ②在学中の教員の対応（学生への対応や保護者会などの対応）に対する満足度は
5. たいへん満足 4. 満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. 不満 0. わからない
- ③在学中の事務職員の対応（授業料納付・成績の案内・奨学金対応など）に対する満足度は
5. たいへん満足 4. 満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. 不満 0. わからない
- ④キャリア支援（就職指導・進学指導）に対する満足度は
5. たいへん満足 4. 満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. 不満 0. わからない

自由記述欄（お気づきになりました本学の良い点、改善すべき点、ご感想などをいただけたら幸いです）

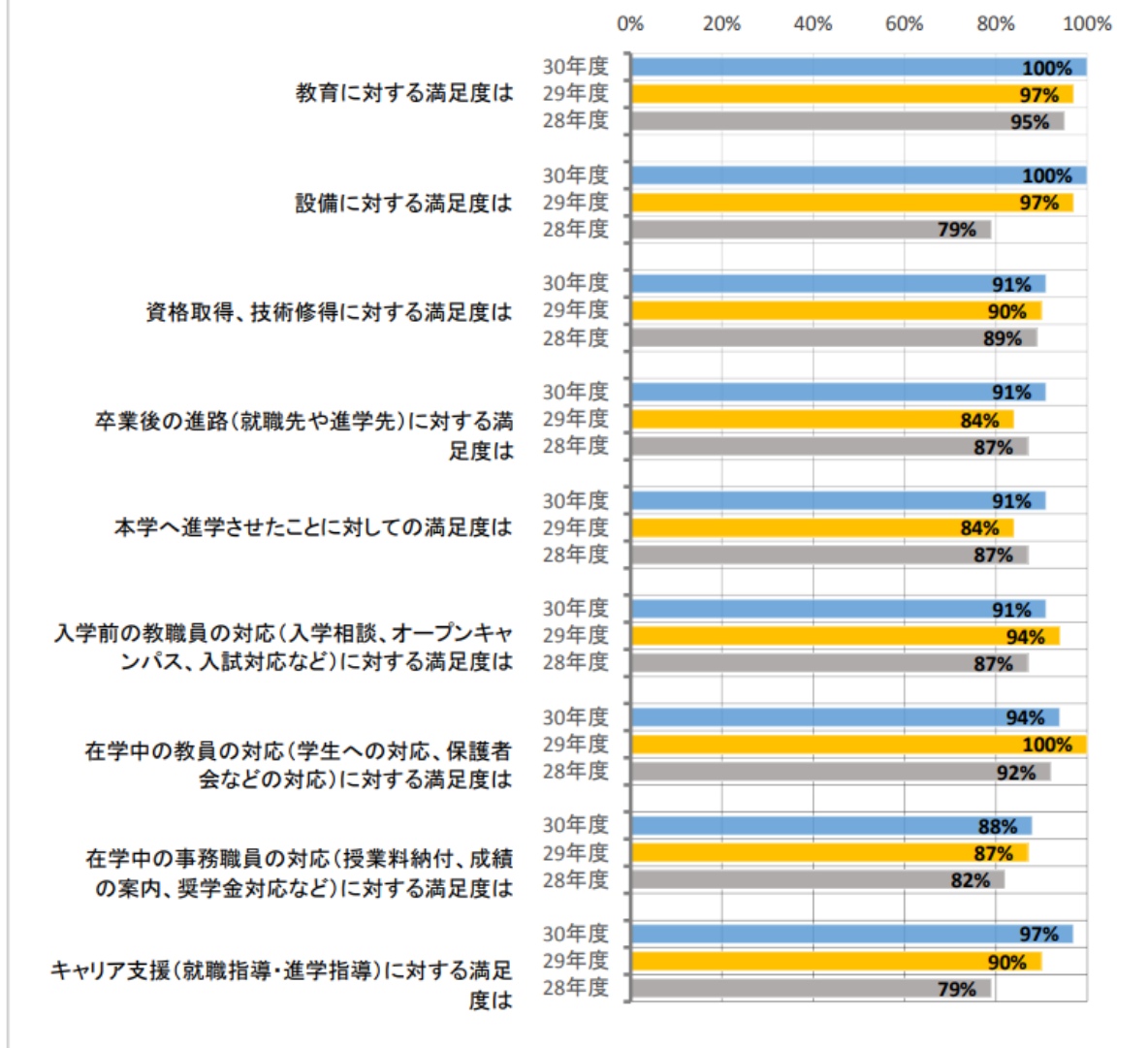
問4 ご記入いただきましたのは

1. 父親 2. 母親 3. 祖父母 4. その他（ ）

卒業されるお子さまのお名前（任意）

（お名前をご記入いただける方は願いたします） _____

短期大学 保護者アンケートによる満足度調査結果



図Ⅱ-B-3 質問内容別満足度（満足+たいへん満足）

[区分 基準Ⅱ-B-3 学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学生の生活支援のための教職員の組織（学生指導、厚生補導等）を整備している。
- (2) クラブ活動、学園行事、学友会など、学生が主体的に参画する活動が行われるよう支援体制を整えている。
- (3) 学生食堂、売店の設置等、学生のキャンパス・アメニティに配慮している。
- (4) 宿舎が必要な学生に支援（学生寮、宿舎のあっせん等）を行っている。
- (5) 通学のための便宜（通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）を図っている。

- る。
- (6) 奨学金等、学生への経済的支援のための制度を設けている。
 - (7) 学生の健康管理、メンタルヘルスケアやカウンセリングの体制を整えている。
 - (8) 学生生活に関して学生の意見や要望の聴取に努めている。
 - (9) 留学生が在籍する場合、留学生の学習（日本語教育等）及び生活を支援する体制を整えている。
 - (10) 社会人学生が在籍する場合、社会人学生の学習を支援する体制を整えている。
 - (11) 障がい者の受入れのための施設を整備するなど、障がい者への支援体制を整えている。
 - (12) 長期履修生を受入れる体制を整えている。
 - (13) 学生の社会的活動（地域活動、地域貢献、ボランティア活動等）に対して積極的に評価している。

<区分 基準Ⅱ-B-3の現状>

[区分 基準Ⅱ-B-3 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている。]

■ 基準Ⅱ-B-3の自己点検・評価

学生の生活支援のための教職員の組織は、クラスの担任を基軸とし、学生生活指導委員会の教員（学生指導、厚生補導、就職支援、奨学金を含む生活支援）と学務課職員で構成している。

また、クラブ・同好会活動、ボランティア活動、校友会(同窓会)、学生会による学校祭など、学生や卒業生が主体的に参画する活動が行われるよう支援体制も整備されている（備付-55、56）。クラブ・同好会活動への参画状況を表Ⅱ-B-9に示す。

表Ⅱ-B-9 クラブ・同好会活動への参画状況

部	団体名	2018年度	2019年度	2020年度
		会員数	会員数	会員数
体育系	バスケットボール部	5	9	10
	野球部	4	7	
	AUTサッカー部	5	11	3
	ヨット部	0	0	0
	K耐久			
文科系	ロボット研究部	0	0	0
	ソーラーカー部	3	0	14
	電音部	1	6	5
	軽音楽部	0	0	0
	蒲郡フリーダム研究部	0		0
	シュークリーム女子部	6	7	3

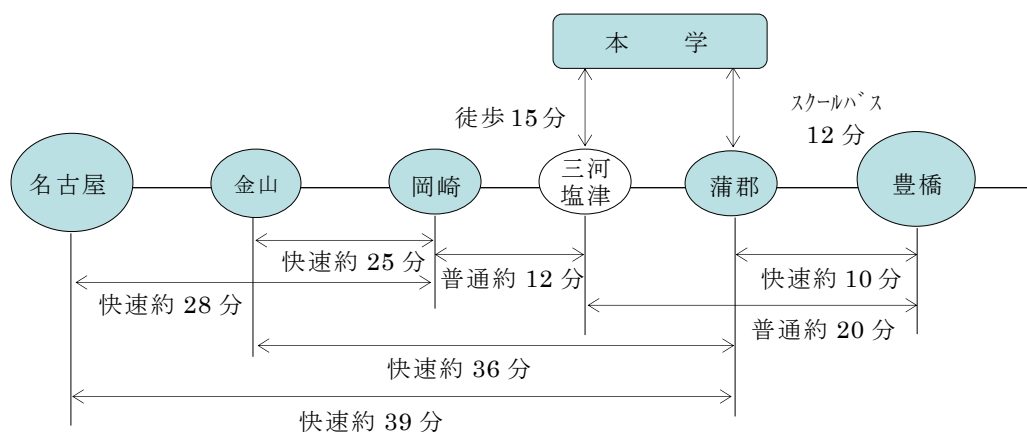
	STELA	0	0	0
	プログラミング研究部	0	0	0
	AUT活動部	0	0	0
同好会	団体名	2018年度	2019年度	2020年度
		会員数	会員数	会員数
体育系	卓球	1	0	0
	バレーボール同好会		0	0
	AUT TENNIS	0	0	0
	ダンス	1		
	ビリヤード	30		
	ラジコン	16	8	6
	蒲郡Fan	0	0	0
	音響	0	3	3
	ライティング	0	3	5
	AUTプラモデル	0	0	0
	VR部	0	0	0
	ボードゲームサークル		4	
	ネクストメディア	0		
	AUT GUNS	0		
	ACTIVE	5		
	VSC	0		
	3Dモデリング研究会	0		
	環境保護サークル	0		
	TRPG	0		

本学学生の文化系クラブ・同好会への加入総数 2018(平成 30)年度は 77 名、2019 年度は 58 名、2020(令和 2)年度は 49 名であった。少ない会員数であっても活発に活動しているクラブ・同好会はあるものの、全般には加入状況は芳しくない。課外活動等は人間形成に大切なものであり、参加しやすい工夫や支援が必要である。また、2020 年度は 4 月初旬から新型コロナウイルスによる自宅学習期間が設けられたため、1 年生は通常のキャンパス生活を送ることができず、課外活動への参加も減少していると考えられる。

学生食堂、売店(コンビニエンスストア)、書店の設置等キャンパス・アメニティにも配慮している。また学生食堂は 2017(平成 29)年度に全面改装を行い、メニューも一新されている。表Ⅱ-B-7 の満足度調査⑨「学生食堂・売店はどうでしたか」の結果は、改装直後の準備不足の影響で 2018(平成 30)年度は 59.7%であったが、2019(令和元)年度は 86.6%、2020(令和 2)年度は 78.0%と比較的高い水準となっている。これより、学生の満足度は食堂の改装・メニューの一新により向上したと考えている。

遠方からの入学者のため、宿舎(寮、学生会館)を設置するとともに、アパート等の紹

介を行っている。また、通学の利便性を高めるため図Ⅱ-B-4に示すように、大学とJR蒲郡駅間の無料スクール・バスの運行を行うとともに、自車で通学する学生のために駐輪場・駐車場を設置して便宜を図っている。



図Ⅱ-B-4 公共交通機関とスクール・バスを利用したの通学所要時間

学生への経済的支援は表Ⅱ-B-10に示すように、公的機関である日本学生支援機構の奨学金、文部科学省の外国人留学生学習奨励費給付金の他、本学独自の奨学生制度として、学校法人電波学園奨学金（恒学基金）、学修奨学金制度、教育ローン利子補給奨学金、ファミリー奨学金や授業料免除制度を設けている。加えて2019(令和元)年度より、本学の後援会企業と連携して企業奨学金制度（備付-59）を設け、学費の負担が軽減できるように検討している。学生の健康管理、メンタルヘルスやカウンセリングについては常勤の臨床心理士を配置し対応している。学生相談室の利用状況を表Ⅱ-B-11に示すが、年次・年度においての変化は当該年次学生の全体的な雰囲気にも影響を受ける。なお、この結果に関しては個別来室者数をまとめたもので、グループでの来室については算定が不可能なこともあり表中には表れない。学生生活に関する学生の意見・要望・提案等については、学内に「ご意見・ご提案箱」を設置し、提出された意見等に速やかに対処できる体制をとっている。さらに、卒業時に在学中の満足度等についてのアンケートを毎年実施し改善のための参考にしている。加えて「学生生活に関する調査報告」（備付-60）を3年に1度ずつ行っている。

留学生については、若干ながら増加をしており、生活面は担任と学生生活指導委員会、学務課が協力してサポート体制をとっている。また、学習面では個別指導や提供するプリントにルビを振るなどの配慮を施している。留学生の内訳は、2018(平成30)年度は中国2名、ベトナム1名、ネパール1名、2019(令和元)年度は中国2名、ベトナム2名、2020(令和2)年度はベトナム7名がそれぞれ入学している。

社会人の入学者数は極めて少なく、社会人入試制度を使用した者の内訳は、2018(平成30)年度は1名、2019(令和元)年度は1名、2020(令和2)年度は3名で、3年間の計は5人である。従来の既卒者で学習に不安のある者はオフィスアワーを使用したり、担任からの個別指導を受ける形で学習支援を行っている。

障がい者用の施設設備は多目的トイレや手すりの設置など適宜設置しているが、本学は自動車整備を中心とした教育を行っているため、危険を伴う作業や実習が多く、障がい者の受け入れを制限せざるを得ない状況である。

長期履修生の受入れについては、学則第 24 条第 2 項の規定に基づき「長期にわたる教育課程の履修に関する規定」を定めているが、現在まで申請者はいない。

学生の社会的活動(地域活動、地域貢献、ボランティア活動)については、一定の期間、活動した者に対し「社会貢献活動」の科目を単位認定する規程を設け評価する体制を整えるとともに、平成 26 年度から行っている学業だけでなくボランティア活動、課外活動、資格取得、各種講座の受講、インターンシップ、大学祭の運営などに積極的に参加した者や取り組んだ者に対し、表Ⅱ-B-12 に示す「努力の成果」(Points for Your Efforts) を称える PYE 表彰制度(備付-61)も継続中である。

表Ⅱ-B-10 各種奨学金等利用者数(人)

年度/項目	日本学生 支援機構	授業料 免除	恒学基金	教育ローン 利子補給	ファミリー 奨学金	学修 奨学金
2018年度(平成30年度)	33	10	0	0	5	4
2019年度(令和元年度)	53	1	1	0	4	3
2020年度(令和2年度)	35	5	1	1	0	3

表Ⅱ-B-11 学生相談室利用状況(人)

項目/年度	2018(平成30)年度		2019(令和元)年度		2020(令和2)年度	
	1年	2年	1年	2年	1年	2年
相談内容						
学業	0	0	0	0	0	0
進路	0	0	0	0	6(1)	0
対人	3(1)	3(2)	13(3)	0	0	0
学生生活	2(2)	4(2)	0	2(1)	0	0
適応(疾病障がい)	3(2)	0	10(3)	1(1)	30(5)	11(5)
その他	1(1)	0	10(5)	1(1)	0	0
合計	9(6)	3(1)	33(11)	4(3)	36(6)	11(5)

※数値は利用回数、()内の数値は利用者数

表Ⅱ-B-12 PYE制度による表彰状況(人)

項目/年度	2018(平成30)年度	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度
PYE制度による表彰者数	3	4	3

[区分 基準Ⅱ-B-4 進路支援を行っている。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 就職支援のための教職員の組織を整備し、活動している。
- (2) 就職支援のための施設を整備し、学生の就職支援を行っている。
- (3) 就職のための資格取得、就職試験対策等の支援を行っている。
- (4) 学科・専攻課程ごとに卒業時の就職状況を分析・検討し、その結果を学生の就職支援に活用している。
- (5) 進学、留学に対する支援を行っている。

<区分 基準Ⅱ-B-4 の現状>

就職支援は、学生生活指導委員会とクラス担任及びキャリア支援課が緊密に連携をとりながら協力して行っている。キャリアセンターにはキャリア支援課の事務職員が常駐し、求人開拓、企業との情報交換及び連絡、学生と企業との仲介、会社案内・求人票等の整理・閲覧などの他、資格取得や就職試験対策の支援も行っている。

就職支援のための施設の整備としては、キャリアセンターに3台の学生用パソコンを設置し、大学求人NAVIにより求人情報を検索・閲覧できるようになっている。また、本学には自動車整備関連業界の173社(2020(令和2)年度)が加盟する「愛知工科大学技術後援会(愛技会)」(備付-62)が存在し、学生の就職支援(CS講座等の講師派遣、最新の車両を用いた技術講習会、学内企業説明会、整備職内定者に対する夏休み期間中の職場体験実習)や教育・研究活動の支援(軽自動車耐久レース参戦の支援)を行っており、この事務局はキャリアセンターとなっている。しかしながら、2020年度は国内を席卷したコロナ禍の影響で、1年得生対象の技術講習会と2年生対象の夏季休暇中職場体験実習はやむなく中止した。また、愛技会の会員数は3年間を通していても安定(表Ⅱ-B-13)しているが、今後は同メーカー各社が合併・統合を進めていく傾向にあるので企業数のみに注目すると減少することが予想される。2020(令和2)年度の愛技会加盟企業一覧を表Ⅱ-B-14に示す。

この愛技会の会員企業に対して12月に「学内企業説明会」(備付-63)を実施し、学生への就職斡旋を積極的に行っている。また、整備職を希望せず一般製造業に就職を希望する者には、本学工学部で主催される学内企業説明会(備付-64)にも参加できるようにしている。

就職のための資格取得の支援については、資格取得指導委員会とキャリアセンターが中心となって毎年、入学時に「資格を取ろう」(備付-65)という資料を作成し、学生の就業への意識を高めている。就職試験対策については、1年生後期に開講する必修科目「キャリアデザイン」の中で、無理のないように就職試験に臨むプログラム(備付-66)を用意している。

就職率は、平成30年度98.3%、令和元年度100%、令和2年度100%と高く、4月上旬の自動車整備士登録試験の合格発表を待って就職活動する等の特別な事情のある学生を除いて、ほぼ満足できる結果となっている。中でも自動車ディーラーや自動車メーカーなどへの専門性を活かした就職率の高いことが本学の特長である。就職・進

学状況を表Ⅱ-B-15に示す。

進学支援は、愛知工科大学工学部3年次への編入（一級自動車整備士養成課程含む）及び他大学への3年次編入であるが、進学希望のほとんどが一級自動車整備士養成課程への編入であり、これに関しては主にクラス担任が中心となって指導を行っている。他の大学や専門学校への進学に関しては担任および編入学指導担当者らが協同しながら指導にあたっている。

表Ⅱ-B-13 愛技会 会員企業数

項目\年度	2018(平成30)年度	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度
会員数(社)	180	182	173

表Ⅱ-B-14 愛技会 加盟企業一覧 2020(令和2)年度

	会社名		会社名		会社名
1	アース電機(株)	59	(株)スズキ自販中部	117	(株)ネクスステージ
2	愛知自動車(株)	60	(株)スズキ自販東海	118	ネットヨタ愛知(株)
3	愛知スズキ販売(株)	61	(株)スズキ自販浜松	119	ネットヨタ静岡(株)
4	愛知ダイハツ(株)	62	(株)スズキ自販三重	120	ネットヨタ静浜(株)
5	愛知トヨタ自動車(株)	63	スバル東愛知販売(株)	121	ネットヨタ中央大阪(株)
6	愛知日産自動車(株)	64	住友建機販売(株)	122	ネットヨタ中京(株)
7	愛知日野自動車(株)	65	(株)清和自動車	123	ネットヨタ中部(株)
8	(株)渥美モータース	66	瀬戸いすゞ自動車(株)	124	ネットヨタ東海(株)
9	(株)五十鈴工作所	67	(株)ダイハツ三重	125	ネットヨタ富山(株)
10	いすゞ自動車近畿(株)	68	太平自動車商会(株)	126	ネットヨタ名古屋(株)
11	いすゞ自動車中部(株)	69	太陽建機レンタル(株)	127	ネットヨタ東名古屋(株)
12	(株)インターヨーロッパ	70	(株)ダイレクトカーズ	128	ネットヨタ三重(株)
13	(株)ウィン	71	宝交通(株)	129	(株)バーデン
14	(株)エアスト	72	灌富工業(株)	130	八光自動車工業(株)
15	A D Wホールディングス(株)	73	中京・愛知クライスラー(株)	131	浜松日産自動車(株)
16	S Gモータース(株)	74	中部資材(株)	132	(株)ビーシーエス
17	N T P トヨタ信州(株)	75	つしまオート(株)	133	東愛知日産自動車(株)
18	(株)エスディエスリース	76	(株)テラダパーツ	134	(株)ビッグ
19	エフエルシー(株)	77	(株)東海イエローハット	135	福井日産自動車(株)
20	大阪トヨタ自動車(株)	78	東海自動車工業(株)	136	碧南運送(株)
21	大阪日野自動車(株)	79	東海ニチュ(株)	137	(株)ホワイトハウス
22	(株)オートサービス湖西	80	東海マツダ販売(株)	138	(株)ホンダウイズ
23	(株)オートサービス大興	81	富山ダイハツ販売(株)	139	(株)ホンダカーズ愛知
24	(株)オートプレステージ	82	富山トヨタ自動車(株)	140	(株)ホンダカーズ蒲郡
25	岡崎ヤナセプランニング(株)	83	トヨタL&F中部(株)	141	(株)ホンダカーズ静岡
26	(株)カナモト	84	トヨタカローラ東海(株)	142	(株)ホンダカーズ静岡西
27	刈通オートテクノ(株)	85	トヨタカローラ愛知(株)	143	(株)ホンダカーズ三重
28	(株)ガレッジ新和	86	トヨタカローラ愛豊(株)	144	(株)ホンダカーズ三重東
29	北愛知三菱自動車販売(株)	87	トヨタカローラ大阪(株)	145	(株)ホンダカーズ三河
30	(株)キノシタ	88	トヨタカローラ岐阜(株)	146	(株)ホンダクリオ東海
31	岐阜スズキ販売(株)	89	トヨタカローラ静岡(株)	147	(株)ホンダ小牧
32	岐阜トヨタ自動車(株)	90	トヨタカローラ中京(株)	148	(株)ホンダ販売名東
33	岐阜日産自動車(株)	91	トヨタカローラ富山(株)	149	(株)ホンダブリモ浜名湖
34	岐阜日野自動車(株)	92	トヨタカローラ名古屋(株)	150	(株)ホンダ四輪販売北陸
35	キムラユニティ(株)	93	トヨタカローラ三重(株)	151	(株)ホンダ四輪販売三重北
36	キリックスリース(株)	94	トヨタモビリティパーツ(株)	152	(株)前田製作所
37	(株)グッドスピード	95	(株)トヨタレンタリース名古屋	153	丸八重整備(株)
38	(株)クライム	96	豊橋三菱ふそう自動車販売(株)	154	三重いすゞ自動車(株)
39	(株)クリエイト	97	豊橋ヤナセ(株)	155	三重トヨタ自動車(株)
40	(株)畔柳工業	98	(株)ナイン	156	三重トヨペット(株)
41	(株)ケーユーホールディングス	99	長野ダイハツ販売(株)	157	三重日産自動車(株)
42	神戸トヨペット(株)	100	長野トヨタ自動車(株)	158	三重日野自動車(株)
43	(株)寿陸運	101	長野日産自動車(株)	159	三河日産自動車(株)
44	(株)コバック	102	長野日野自動車(株)	160	三菱ふそうトラック・バス(株)
45	コマツカスタマーサポート(株)	103	名古屋スバル自動車(株)	161	(株)ミヤセ自動車
46	サーラカーズジャパン(株)	104	名古屋トヨペット(株)	162	(株)名鉄アオート
47	埼玉トヨペット(株)	105	西尾レントオール(株) 中部支店	163	名鉄自動車整備(株)
48	坂井モーター(株)	106	西日本三菱自動車販売(株)	164	明豊自動車(株)
49	サンアイ自動車(株)	107	(株)日産サティオ富山	165	(株)ヤナセ 名古屋営業本部
50	静岡スバル自動車(株)	108	日産プリンス静岡販売(株)	166	(株)ヤマト
51	静岡ダイハツ販売(株)	109	日産プリンス名古屋販売(株)	167	UDトラック(株) 中部支社
52	静岡トヨタ自動車(株)	110	日産プリンス三重販売(株)	168	ユタカ産業(株)
53	静岡トヨペット(株)	111	日通商事(株) 名古屋支店	169	(株)吉田商会
54	静岡日産自動車(株)	112	日本キャタピラー(同)	170	(株)レッドバロン
55	静岡日野自動車(株)	113	日本梱包運輸倉庫(株) 豊橋出張所	171	(株)レント
56	静岡マツダ(株)	114	(一社)日本自動車機械工具協会	172	(株)ロイヤルオートサービス
57	重機商工(株)	115	(一社)日本自動車連盟 中部本部	173	ロジスネクスト中部(株)
58	新明工業(株)	116	(株)2りんかんイエローハット		

表Ⅱ-B-15 就職・進学状況

項目\年度	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)
卒業者数	141	100	114
進学希望者数	15	18	16
進学者数	15	18	16
進学率	100%	100%	100%
就職希望者数	121	78	98
就職者数(a)	121	78	98
就職率	100%	100%	100%
専門職就職者数(b)	118	77	97
専門職就職率 (b/a)×100	97.5%	98.7%	99.0%

(専門職就職とは自動車整備などの自動車工学の専門性を活かす就職を意味する。)

<テーマ 基準Ⅱ-B 学生支援の課題>

進路未決定者をゼロにすることが最も重要な課題となる。そのためには進路に関する情報提供をさらに進め、就職活動などの不活発学生への働きかけを強める方策の検討が課題である。

<テーマ 基準Ⅱ-B 学生支援の特記事項>

<基準Ⅱ 教育課程と学生支援の改善状況・改善計画>

(a) 前回の認証(第三者)評価を受けた際に自己点検・評価報告書に記述した行動計画の実施状況

卒業認定に関する方針は、時代のすう勢に合わせて正しい社会規範意識も持つことを育成できるものに改善したいと考えている。これに伴い、教育課程の編成及び実施に関する方針の内容も見直し分かり易いものにするを2020年度で検討する予定である。

(b) 今回の自己点検・評価の課題についての改善計画

入学者受入れの方針を卒業の認定に関する方針と教育課程の編成及び実施に関する方針に沿った分かり易いものになるよう2019(令和元)年度に見直している。さらにその方針に従って、高大接続の観点より2021(令和3)年度入学希望者に対する入学制度の改善に取り組む計画である。

【基準Ⅲ 教育資源と財的資源】

[テーマ 基準Ⅲ-A 人的資源]

＜根拠資料＞

- 備付資料 67 教員個人調書 [様式 18]
 68 教員研究業績書 [様式 19]
 69 非常勤教員一覧表 [様式 20]
 70 ウェブサイト（教員紹介）
<https://www.autjc.ac.jp/outline/teacher/>
 71 教員一覧表
 72 専任教員の研究活動状況表 [様式 21]
 73 外部研究資金の獲得状況一覧表 [様式 22]
 74 愛知工科大学紀要 第 1 6 巻
 75 愛知工科大学紀要 第 1 7 巻
 76 愛知工科大学紀要 第 1 8 巻
 86 研究倫理ガイド

備付資料-規程集

- 4 愛知工科大学自動車短期大学学科長選考規定
- 5 愛知工科大学自動車短期大学教職員任用及び昇任規定
- 6 愛知工科大学自動車短期大学名誉教授授与規定
- 7 愛知工科大学自動車短期大学教員選考基準
- 8 愛知工科大学・愛知工科大学自動車短期大学教職員の兼業及び兼職に関する規定
- 9 大学・短期大学の教育職員の勤務に関する規定（各園規定）
- 10 大学教員研究費規程
- 11 大学教育改革・特別研究プロジェクト研究経費規程
- 12 大学教員研究旅費規程
- 13 愛知工科大学自動車短期大学共同研究取扱規程
- 14 愛知工科大学自動車短期大学受託研究取扱規程
- 15 愛知工科大学自動車短期大学研究倫理規程
- 16 愛知工科大学自動車短期大学研究倫理に係る教育・研修要領
- 17 愛知工科大学・愛知工科大学自動車短期大学研究倫理ガイド
- 18 愛知工科大学自動車短期大学 FD・SD 委員会規程
- 19 学校法人電波学園 組織規程
- 20 愛知工科大学自動車短期大学事務組織規程
- 21 愛知工科大学自動車短期大学事務分掌規程
- 22 愛知工科大学自動車短期大学 経理規程
- 23 愛知工科大学自動車短期大学個人情報保護に関する規程
- 24 愛知工科大学自動車短期大学保有個人情報管理規程

- 25 学園就業規則
- 26 嘱託職員に関する就業規程
- 27 育児・介護休業規程
- 28 定年規程
- 29 退職手当支給規程
- 30 給与規程
- 31 愛知工科大学自動車短期大学教育職員任用及び昇任規程
- 32 愛知工科大学自動車短期大学教員選考基準

[区分 基準Ⅲ-A-1 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教員組織を整備している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 短期大学及び学科・専攻課程の教員組織を編制している。
- (2) 短期大学及び学科・専攻課程の専任教員は短期大学設置基準に定める教員数を充足している。
- (3) 専任教員の職位は真正な学位、教育実績、研究業績、制作物発表、その他の経歴等、短期大学設置基準の規定を充足しており、それを公表している。
- (4) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて専任教員と非常勤教員（兼任・兼担）を配置している。
- (5) 非常勤教員の採用は、学位、研究業績、その他の経歴等、短期大学設置基準の規定を遵守している。
- (6) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて補助教員等を配置している。
- (7) 教員の採用、昇任はその就業規則、選考規程等に基づいて行っている。

<区分 基準Ⅲ-A-1 の現状>

本学は1学科のみの単科短期大学であり、専任教員16名、助手3名、専任事務員3名で構成され短期大学設置基準を準拠すると同時に、国土交通省が定める基準にも準拠している。また、二級ガソリン自動車整備士及び二級ジーゼル自動車整備士の国家試験の実技試験免除のための講習会が2年次の10月から3月まで実施されているが、これについても、専任教員（指導員有資格者）が所定時間担当している。

教員構成は表Ⅲ-A-1に示すとおり、学長以下、教授4名、准教授3名、助教9名、助手3名、非常勤教員7名で構成され短期大学設置基準を踏まえて必要な専任教員を配置し充足している。さらに、国土交通省の認定大学であることから「自動車整備士養成施設の指定等の基準」に基づく必要な教員数（学科指導員や実習指導員）を適切に配置している。従って、専門分野の主要な授業科目は、学習成果を高めるため専任教員が担当している。また、学科の教育課程編成・実施の方針に即した教員を補助教員も含めて配置している。

表Ⅲ-A-1 教員組織の概要（人）（令和2年度）

学科等名	専任教員数					設置基準 で定める 教員数 〔イ〕	短期大学全体 の入学定員に 応じて定める 専任教員数 〔ロ〕		設置基準 で定める 教授数	助手	非常勤 教員	備考
	教授	准教授	講師	助教	計							
自動車工業学科	4	3	0	9	16	10		4	3	7		
（小計）	4	3	0	9	16	10		4	3			
〔その他の組織 等〕												
短期大学全体の 入学定員に応じ て定める専任教 員数〔ロ〕							4	2				
（合計）	4	3	0	9	16	14		4	3			

専任教員の学位、教育実績、研究業績等については、本学ホームページの教員紹介において個々の情報を公開している。ならびに自動車工業学科としての研究紹介、社会連携の紹介などもホームページ上で公開している。

専任教員の学位・業績等の資格要件は、短期大学設置基準に基づき整備された愛知工科大学自動車短期大学教員選考基準の規程（規定集-7）に定められている。さらに、所属学会、愛知工科大学紀要、自動車整備技術に関する研究報告誌等で公表され、その経歴、研究業績等は、「教員の個人調書」（備付-67）にて毎年更新している。教員の採用、昇任は、就業規則、選考規程に基づいて、毎年学長主導の諮問委員会で審議され、教授会の議を経て決定されている。

[区分 基準Ⅲ-A-2 専任教員は、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教育研究活動を行っている。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 専任教員の研究活動（論文発表、学会活動、国際会議出席等、その他）は学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて成果をあげている。
- (2) 専任教員個々人の研究活動の状況を公開している。
- (3) 専任教員は、科学研究費補助金、外部研究費等を獲得している。
- (4) 専任教員の研究活動に関する規程を整備している。
- (5) 専任教員の研究倫理を遵守するための取り組みを定期的に行っている。
- (6) 専任教員の研究成果を発表する機会（研究紀要の発行等）を確保している。

- (7) 専任教員が研究を行う研究室を整備している。
- (8) 専任教員の研究、研修等を行う時間を確保している。
- (9) 専任教員の留学、海外派遣、国際会議出席等に関する規程を整備している。
- (10) FD 活動に関する規程を整備し、適切に実施している。
 - ① 教員は、FD 活動を通して授業・教育方法の改善を行っている。
- (11) 専任教員は、学生の学習成果の獲得が向上するよう学内の関係部署と連携している。

<区分 基準Ⅲ-A-2 の現状>

専任教員は学科の教育・研究方針に沿って、自動車工学や自動車整備に関連する学会や研究会に所属し研究活動を行っている。その成果は、全国自動車短期大学協会主催の研究発表会、各種学会での講演発表会等で報告している。平成 30 年度～令和 2 年度の研究活動状況を表Ⅲ-A-2（備付-72）に示す。

表Ⅲ-A-2 専任教員の研究活動状況表（平成 30 年度～令和 2 年度）

氏名	職位	研究業績				国際的 活動の 有無	社会的 活動の 有無	備考
		著 作 数	論 文 数	学発 会表 等数	そ の 他*			
中島守	教授	10	1			有	有	副学長、学科長
高田富男	教授	4				有	有	学科長補佐
掛布知仁	教授	3				無	有	
服部幸廣	教授	3	3		3	無	有	
吉田昌央	准教授	5	3	6	1	有	有	
平野博敏	准教授	3	2			無	有	
齋藤健	准教授					無	有	令和 2 年度末退職
長谷川康和	助教				2	無	有	
鵜飼達也	助教				3	無	有	
加藤寛	助教				3	無	有	
鈴木規文	助教		2			無	有	
小野淳一	助教					無	有	
岩瀬正幸	助教		1			無	有	
甲村一貴	助教		4		3	無	有	
小野秀文	助手	3	2			無	有	
川村貴裕	助手	3				無	有	
鈴木拓也	助手					無	有	
巨藤 誠	助手		4		3	無	有	
阿多 萌	助手			1	1	無	有	

* 本学の「教育改革・特別研究プロジェクト」での成果による業績など

専任教員個々人の研究活動は、本学ホームページ内の「教員紹介」内でリンクさせた「Researchmap」（研究者情報を収集・公開するとともに、研究者等による情報発信の場や研究者等との情報交換の場を提供することを目的として、国立研究開発法人科学技術振興機構が運営するサービス）や、本学が年2回（3月および9月）編集・発行する小冊子「Koka TIMES」（提出-84）により公開している。

外部研究費等の獲得として、（一財）東京自動車技術普及協会への研究助成金申請は活発であり研究費をほぼ毎年獲得しているが、科学研究費補助金などの申請実績はない。2018(平成30)年度～2020(令和2)年度の外部研究資金の獲得状況を表Ⅲ-A-3に示す。

表Ⅲ-A-3 外部研究資金の獲得状況一覧表（平成30年度～令和2年度）

	年度	調達先・資金名等	研究者名	研究課題
その他の 外部研究 資金	平成 30	東京自動車技術普及協会	服部幸廣 甲村一貴 巨藤 誠	大型車用ホイール・ボルトの締め付けトルクと軸力の関係に及ぼす潤滑状態の影響（二硫化モリブデン入り潤滑剤を用いた場合の特性）
	平成 30	東京自動車技術普及協会	平野博敏 湊 史仁 高田浩充 高田富男	ヘッドライト・シュミレータの製作について(第2報)
	令和 元	東京自動車技術普及協会	服部幸廣 甲村一貴 巨藤 誠	大型車用ホイール誤組時の締め付けトルクと軸力の関係（スチール・ホイールをアルミホイール用のホイール・ボルトで締め付けた場合の特性）
	令和 元	東京自動車技術普及協会	鈴木拓也 吉田昌央 齋藤 健 川村貴裕	自動車走行音に関する教材製作の試み
	令和 2	東京自動車技術普及協会	巨藤 誠 甲村一貴 服部幸廣	大型車用ホイール・ボルトの締め付けトルクと軸力の関係に及ぼす潤滑状態の影響（ISO規格の特性とJIS規格との比較）

研究活動に関する規程として、大学教員研究費規程(規定集-10)、大学教育改革・特別研究プロジェクト研究経費規程(規定集-11)、大学教員研究旅費規程(規定集-

12)、愛知工科大学自動車短期大学共同研究取扱規程(規定集-13)、愛知工科大学自動車短期大学受託研究取扱規程(規定集-14)が整備されており適切な運営がなされている。

研究倫理を遵守する取り組みとしては、愛知工科大学自動車短期大学研究倫理規程を定めるとともに、愛知工科大学自動車短期大学研究倫理に係る教育・研修要領(規定集-16)を定め、毎年度初めに愛知工科大学・愛知工科大学自動車短期大学研究倫理委員会作成の「研究倫理ガイド」を基に適正な研究活動を行うよう研修会を開催している。

毎年度発刊される「愛知工科大学紀要」(備付-74、75、76)で研究成果を公表する機会を確保しており、その巻末の「業績リスト」(備付-77)で当該年度の研究成果や社会的活動を広く学内外に公開している。

専任教員が研究を行う教員室、研究室等が整備されている。助教以上の教員については、個室の研究室が与えられており、各自の研究活動や教育準備を行っている。また、助手については、自動車工業学科教員室にて自席が確保されている。

専任教員は、大学・短期大学の教育職員の勤務に関する規程(規定集-9)第5条で、原則土曜日を学外研修日とすることができる。また、必要に応じて学会発表や研修会に参加できるようにしているが、授業担当時間数、さらに、補習授業や資格取得のための講習を行った上で研究時間を確保するため、十分な研究時間が確保できていない教員が多いのが現状である。

専任教員の留学に関する規定は現在整備されていない。海外派遣に関する規程は、電波学園規程の「職員海外出張規程」に準拠して取扱われている。また、国際会議に出席する場合は、前述の大学教員研究費規程、大学教育改革・特別研究プロジェクト研究経費規程、大学教員研究旅費規程を流用している。

FD活動に関する規程として、愛知工科大学自動車短期大学FD・SD委員会規程が設けられている。具体的には、年度初めに作成した計画に基づき、外部機関が主催するFD・SD研修会や講習会への参加、他大学主催のFD講演会の聴講によるFD・SD活動に関する調査・研究などを行っている。また、学内ではFD・SD活動の一環と位置づけて、月1回程度、本学学長が全教職員を対象とした、教育・研究の方向性や学科の将来像などについての様々なプレゼンテーションを行っている。さらに、教員個人として、一人ひとりが毎年度PDCAシート(備付-25)を作成・活用し、授業内容や教育方法および研究内容を改善している。これは、年度当初に授業・教育方法および研究内容の改善目標を掲げ、その実施計画(Plan)および実施方法(Do)を記入し、年度末にその成果の確認(Check)および次年度への更なる改善策(Action)を記入するものであり、FD・SD委員会が取りまとめている。また、すべての教科目の最終日に、受講学生に対して授業アンケート(備付-27)を実施しており、各教科目の成績とアンケートの集計結果をもとに、教育の質保証に取り組んでいる。

学内の教務委員会、資格取得指導委員会、基礎教育センター、キャリアセンターと連携して、開講科目の改善、各種資格の取得支援、学生の基礎学力向上支援などの体制を整えることで、学生個人の学習成果の向上に繋げている。

(a) 課題

専任教員間で研究活動に差が認められる。教育教材の開発やグループ研究などを活発化して、大学における社会的使命である教育と研究の双方の底上げが必要である。また、必ずしも十分な研究費や研究旅費及び研究時間が確保されているとは言えないが、専任教員自身も積極的な外部研究費等の獲得申請、業務の効率化による研究時間の捻出等に努力することは必要である。そして、今後の研究活動の国際化を考えると、専任教員の留学、海外派遣、国際会議出席等の機会が増えることが予想されるので、これらに関する規程の整備に取り組む必要がある。

[区分 基準Ⅲ-A-3 学生の学習成果の獲得が向上するよう事務組織を整備している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 事務組織の責任体制が明確である。
- (2) 事務職員は、事務をつかさどる専門的な職能を有している。
- (3) 事務職員の能力や適性を十分に発揮できる環境を整えている。
- (4) 事務関係諸規程を整備している。
- (5) 事務部署に事務室、情報機器、備品等を整備している。
- (6) 防災対策、情報セキュリティ対策を講じている。
- (7) SD 活動に関する規程を整備し、適切に実施している。
 - ① 事務職員（専門的職員等を含む）は、SD 活動を通じて職務を充実させ、教育研究活動等の支援を図っている。
- (8) 日常的に業務の見直しや事務処理の点検・評価を行い、改善している。
- (9) 事務職員は、学生の学習成果の獲得が向上するよう教員や関係部署と連携している。

<区分 基準Ⅲ-A-3 の現状>

事務組織の責任体制については、学校法人電波学園組織規程（規定集-19）、愛知工科大学自動車短期大学事務組織規程（規定集-20）及び事務分掌規程（規定集-21）により事務の円滑かつ適正な運営が図られるよう必要な事務組織を整え、それぞれの権限に関する分掌事務を定めるとともに、必要な職とその職務について規定している。

また、本学事務組織は事務局及び学務課、キャリア支援課、自動車課（学務課以下を「学務課等」という）を置き、事務局には庶務課、会計課、入試広報課、施設管理課、図書・情報サービス課及び地域・産学研究協力室を設置している。

事務局には局長を置き、事務局職員の指揮監督を行ない、事務局次長はその補佐をする。また、事務局及び学務課等には、課長・室長・統括長を置き管轄の主任以下の職員業務を掌握する体制になっている。

専任事務職員の専門性については、所掌する業務の専門的な職能を備え、必要なパソコン技能や事務能力を発揮して、計画的に業務をこなしている。また、各部署には会

計経理事務、学務事務の専門性を有する者、キャリアカウンセラーの職に従事する者、司書資格を有する者等、職域に応じ専門的な職能を有する事務職員を配置している。

事務部署については、必要な事務室を整備し、職務遂行において十分な環境が整っている。

事務関係諸規程については、学校法人電波学園組織規程(規定集-19)、学校法人電波学園経理規程(規定集-22)、愛知工科大学自動車短期大学事務組織規程(規定集-20)、愛知工科大学自動車短期大学事務分掌規程(規定集-21)等が整備されており、各規程に従い事務処理を行っている。

事務職員それぞれにパソコンを配置している。また各部署には必要な備品等を適正に配備している。

情報セキュリティ対策として、個人情報については愛知工科大学自動車短期大学個人情報保護に関する規程(規定集-23)(備付資料5)、保有個人情報管理規程(規定集-24)を整備している。コンピュータ情報セキュリティ対策は、併設する愛知工科大学のメディア基盤センターが中心となって、ファイアーウォールや不正侵入検知ソフトの導入、メールフィルタリング装置でのウィルスメールの除去、アクセス権限の設定等により外部からの不正侵入や不正プログラムの活動を防いでいる。

SD活動の内容については、表Ⅲ-A-7に示すとおりである。

表Ⅲ-A-7 SD活動の内容(2018年度～2020年度)

① 外部機関でのSD活動

年度	開催日・主催	研修名・対象	研修内容
2018	4月13日 中部学生就職連絡協議会	平成30年度 中部学生就職連絡協議会連合会総会・講演会	講演「生涯を通じた学習とキャリアガイダンス」
	4月25日 日本高等教育評価機構	大学・短期大学評価セミナー	平成30年度 第三者評価内容の説明
	4月27日 文部科学省	学校基本調査説明会	平成30年学校基本調査についての説明
	5月25日 株式会社ディスコ	学生募集担当者セミナー	LINE活用とWeb広告の効果的活用法
	6月7日 株式会社エデュース	学校経営改善セミナー：一歩先を行く「科研費改革」対策	科研費申請書記入のポイント、申請戦略
	6月8日 愛知県安全運転管理協議会	平成30年度安全運転管理者講習会	自動車の安全な運転を確保するために、事業所等の業務に従事している運転者に対する安全教育や、自動車の安全な運転に必要な業務を行うため
	6月12日 株式会社駿台予備校	Betweenセミナー「新旧入試混在期の3年間を乗り切る学生募集とは？」	新旧入試混在期の3年間を乗り切るための学生募集の手法について
	6月14日 日本私立学校振興・共済事業団	平成29年度私立大学等経常費補助金説明会	私立大学等経常費補助金の適正な執行について周知徹底を図るため
	7月6日 名古屋大学	大学入試センター試験担当課長会議	大学入試センター試験について、今年度の担当人数など

7月30日 日本私立大学協会	私学高等教育研究所公開研修会	ガバナンスの効用と課題
8月22日 大学入試センター	大学入試センター試験連絡協議会	大学入試センター試験について 昨年との相違、注意点など
8月30日 愛知学生就職連絡協議会	平成30年度 愛知学生就職連絡協議会研修会	「就職活動・採用環境の変化を振り返る」基調講演、班別研修
9月6日～7日 一般財団法人私学研修福祉会	第18回私立短期大学入試広報担当者研修会	全国の短大の事例を知り、総合的募集活動力の修得
9月11日 中日新聞	大学講演会	高等教育政策の動向について
9月11日 中部学生就職連絡協議会	平成30年度 中部学生就職連絡協議会連合会「大学と企業との就職研究会」	「学生から見た就活市場と採用ニーズのベストマッチング」 基調講演、班別研修
9月12日 株式会社ベネッセ	外国人留学生受入れ志望動向研究会	進化する留学生募集戦略と留学生を取り巻く環境変化と現状、各国の留日希望者の最新志望動向、効率的な広報ツールの活用方法
9月13日 日本学術振興会	科学研究費助成事業公募要領等説明会	科研費改革の概要、平成30年度公募内容の変更点等について
10月11日 株式会社日本ドリコム	進入学試広報はデジタルマーケティングの時代へ	Web や SNS で受験生の興味や関心を知り、データを分析し募集広報への活用法
10月16日 株式会社進研アド	Between セミナー	これだけは押さえておきたい2020年問題および、新しいブランディング戦略とその方法
10月16日 ベネッセコーポレーション	大学入試改革研究会	入試改革の検討ポイントや、多面的総合的評価、英語4技能評価導入についての説明
10月17日～19日 日本私立大学協会	平成30年度大学経理部課長相当者研修会	①学校法人・関係法令等、学校法人会計基準、学校法人を巡る税制・税務実務、私立大学等経常費補助金一般補助の基礎的事項等の理解を目的とした解説を中心とする「基本研修」、②大学改革、学校法人の管理運営を巡る環境変化と対応等をテーマとした講演による「総合研修」、③私大財政運営等の具体的なテーマについての「設定課題別研修」の三部構成
10月24日 株式会社 KEI アドバンス	2018 第2回大学入試・広報セミナー	河合塾全統模試から見る2019年度入試志望動向 大学入試における主体性・協働性等評価導入に向けた河合塾の取り組み
11月28日 株式会社エデュース	学生募集支援セミナー	学生募集マーケティングと入試広報のパラダイムシフト、高校生を動かす最新トレンド動画、次世代 Web サイトのある姿

	12月6日 大学入試センター	大学入試センター試験連絡協議会	大学入試センター試験について 昨年との相違、注意点など
2019	4月11日 文部科学省	学校基本調査説明会	平成31年学校基本調査についての説明
	4月12日 中部学生就職連絡協議会	平成31年度 中部学生就職連絡協議会連合会総会・講演会	講演「キャリアを紡ぐ支援の探求」
	4月22日 日本高等教育評価機構	大学・短期大学評価セミナー	2019年度 第三者評価内容の説明
	5月20日 文部科学省	高等教育の就学支援新制度説明会	高等教育の就学支援新制度の説明
	5月23日～24日 大学入試センター	大学入学者選抜研究連絡会大会	高大接続に係る入試改革に伴う、 大学入試の今後についてのセミナー
	6月4日 学校法人河合塾	大学入試セミナー	「大学入試におけるWebを活用した主体性等評価について考える」 をテーマに基調講演のほか、2大学の事例が紹介された
	6月6日 株式会社エデュース	“科研費改革”その先の研究支援体制とは	科研費申請書記入のポイント、申請戦略
	6月19日 日本私立学校振興・共済事業団	平成31年度私立大学等経常費補助金説明会	私立大学等経常費補助金の適正な執行について周知徹底を図るため
	6月19日 駿台予備校	2019年度大学入試結果説明会	「駿台のデータによる2019年度入試結果説明と2021年度新制度入試の現状と課題」のテーマで実施されたセミナー
	6月20日 文部科学省	大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会	大学入学者選抜および教務関係事項について、昨年度との変更点や注意事項など
	6月24日 株式会社進研アド	第1回 Between セミナー	中期戦略の鍵となる心を掴む情報開示、および「教育力可視化」と「コミュニケーション」で大学ブランドを構築する方法について
	6月27日 愛知県安全運転管理協議会	平成31年度安全運転管理者講習会	自動車の安全な運転を確保するために、事業所等の業務に従事している運転者に対する安全教育や、自動車の安全な運転に必要な業務を行うため
	7月2日 名古屋大学	大学入試センター試験担当課長会議	大学入試センター試験について、今年度の担当人数など
	7月3日 株式会社進研アド	「推薦・A0入試」セミナー	推薦入試・A0入試の現状と今後についてグループセッション
	7月4日 日本高等教育評価機構	大学認証評価員のためのセミナー	評価方法などについて説明

7月10日 日本高等教育評価機構	評価充実協議会	認証評価機関としての現在の活動、今後のあり方、将来の展望などを踏まえた報告等
8月20日 日本私立大学協会	私立学校法の一部改正に関する協議会	私立学校法の一部改正に関する説明
8月20日 日本高等教育評価機構	大学認証評価員のためのセミナー	評価方法などについて説明
8月29日 大学入試センター	大学入試センター試験連絡協議会	大学入試センター試験について昨年との相違、注意点など
9月3日 中部経済産業局	大学等向け安全保障貿易管理者説明会	「安全保障貿易管理」の重要性、制度の概要及び自主的な輸出管理体制整備などのポイントを解説
9月5日・6日 大学入試センター	大学入試センター試験連絡協議会	全国の短大の広報事例を知り、総合的募集活動の修得
9月6日 上智大学	EMIR 勉強会	大学におけるデータの活用方法の事例紹介
9月6日 日本学術振興会	科学研究費助成事業公募要領等説明会（会場：同志社大学）	科研費改革の概要、平成31年度公募内容の変更点等について
9月9日 日本学術振興会	科学研究費助成事業公募要領等説明会（会場：九州大学）	科研費改革の概要、平成31年度公募内容の変更点等について
9月9日 株式会社学情	就職講演会・名刺交換会	講演「新卒一括採用から通年採用への動きについて」「外国人材の就職/採用マーケットについて」
9月12日 中部学生就職連絡協議会	令和元年度 中部学生就職連絡協議会連合会「大学と企業との就職研究会」	「進む、採用の早期化と就活の長期化の良い点と悪い点」 基調講演、班別研修
9月17日 文部科学省	改正私立学校法説明会	学校教育法、国立大学法人法、私立学校法及び独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法が改正について説明
10月8日 日本私立短期大学協会	第19回 私立短期大学入試広報担当者研修会	「新入試時代」に選ばれる大学の学生募集戦略とは、というテーマで、新入試で高校生と高校教員の動向予測が内容の中心
10月15日 文部科学省	高等教育の就学支援新制度説明会	高等教育の就学支援新制度の説明

	10月17日～18日 日本私立大学協会	令和元年度大学経理部課長相当者研修会	①学校法人・関係法令等、学校法人会計基準、学校法人を巡る税制・税務実務、私立大学等経常費補助金一般補助の基礎的事項等の理解を目的とした解説を中心とする「基本研修」、②大学改革、学校法人の管理運営を巡る環境変化と対応等をテーマとした講演による「総合研修」、③私大財政運営等の具体的なテーマについての「設定課題別研修」の三部構成
	10月21日 株式会社 KEI アドバンス	第2回大学入試・広報セミナー	2020年度入試志望動向および大学入試改革の現状
	11月7日 全国自動車短期大学協会	令和元年度 秋季専門委員会	アイシン・エイ・ダブリュ株式会社本社工場見学会
	11月22日 名古屋大学	IRセミナー「IR組織の設置と活動に向けた課題の克服」	広島市立大学の内部保証・IRプロジェクトの事例紹介
	12月5日 大学入試センター	大学入試センター試験連絡協議会	大学入試センター試験について昨年との相違、注意点など
	12月12日～13日 愛媛大学	IRer 養成講座	IRの意義と方法、IRerに必要な能力、データの適切な管理方法、質的・量的データを分析する、実務担当者の分析事例、データの分析に基づく報告や提案
	1月23日 九州大学	IR初級人材育成研修会	IRの概論とデータマネジメントに関する講義、それぞれの大学で抱えているIRの課題についてのグループディスカッション
	1月24日 九州大学	IR/IEセミナー	事例報告：IR/IEの実践事例、教学IRができること・できないこと、ラーニングアウトカムに基づくIRが果たすアセスメントへの貢献
	2月18日 文部科学省	大学等CSIRT研修（実践編）	サイバーセキュリティ事案対処に従事するCSIRT（Computer Security Incident Response Team）をけん引する役割を担う担当者向けに、サイバー攻撃に対する対応能力向上を目的として実施
2020	8月27日 愛知県学生就職連絡協議会	令和2年度愛知県学生就職連絡協議会研修会	「新型コロナウイルス影響下での就職活動支援」 基調講演、班別研修（オンライン）
	9月24日 九州大学	IR初級セッション	①IR担当者（初級）がデータ分析や活用を行う際の注意点や課題、具体的な方法等についての講義や演習 ②IR業務に必要な考え方やデータマネジメントの基本

11月11日 愛知県安全運転管理協議会	令和2年度安全運転管理者講習会	自動車の安全な運転を確保するために、事業所等の業務に従事している運転者に対する安全教育や、自動車の安全な運転に必要な業務を行うため
------------------------	-----------------	---

② 学園内でのSD活動

年度	開催日・主催	研修名・対象	研修内容
2018	4月2日 愛知工科大学	平成30年度「新任教職員説明会」	新任教職員が教育・研究活動等に取り組むに当たり本学の建学の精神(教育理念、教育体勢、教育・研究支援体勢)等の基礎的な知識を理解する
	4月18日 学校法人電波学園	平成30年度第1回部課長研修会	法人事務局からの連絡
	5月16日 学校法人電波学園	平成30年度第2回部課長研修会	労務管理について
	5月23日 学校法人電波学園	平成30年度第1回事務長会	今年度の活動方針について
	6月20日 学校法人電波学園	平成30年度第3回部課長研修会	相続の基本<失敗事例から学ぶ相続対策>
	7月18日 学校法人電波学園	平成30年度第4回部課長研修会	WEB 出願の現状と今後の展望について
	7月25日 学校法人電波学園	平成30年度第2回事務長会	学校事務のあり方の検討方法
	8月1日、2日 学校法人電波学園	平成30年度夏期教職員研修会	学園全教職員を対象とした研修会
	9月19日 学校法人電波学園	平成30年度第5回部課長研修会	労務管理について②
	10月17日 学校法人電波学園	平成30年度第6回部課長研修会	障害者差別解消法と名古屋市障害者差別相談センターについて
	10月12日 学校法人電波学園	平成30年度第3回事務長会	本部への業務一元化について
	10月24日 学校法人電波学園	平成30年度第4回事務長会	学校事務のあり方の検討方法
	11月21日 学校法人電波学園	平成30年度第7回部課長研修会	マイナンバー管理研修
	12月19日 学校法人電波学園	平成30年度第8回部課長研修会	Web 出願および就職データ管理システムの紹介
12月13日 学校法人電波学園	平成30年度第5回事務長会	学校事務のあり方の検討方法	

	12月26日 学校法人電波学園	平成30年度冬期教職員研修会	学園全教職員を対象とした研修会
	1月16日 学校法人電波学園	平成30年度第9回部課長研修会	各委員会からの報告
	2月20日 学校法人電波学園	平成30年度第10回部課長研修会	将来構想委員会および学園交流委員会からの報告
	3月20日 学校法人電波学園	平成30年度第11回部課長研修会	人事部からの連絡
2019	4月2日 愛知工科大学	2019年度「新任教職員説明会」	新任教職員が教育・研究活動等に取り組むに当たり本学の建学の精神(教育理念、教育体勢、教育・研究支援体勢)等の基礎的な知識を理解する
	4月17日 学校法人電波学園	2019年度第1回部課長研修会	人事部からの連絡
	5月15日 学校法人電波学園	2019年度第2回部課長研修会	労務管理について
	5月22日 学校法人電波学園	2019年度第1回事務委員会	今年度の活動方針について
	6月19日 学校法人電波学園	2019年度第3回部課長研修会	在学生と共に挑む募集改革
	7月17日 学校法人電波学園	2019年度第4回部課長研修会	ネットモラルについて
	7月24日 学校法人電波学園	2019年度第2回事務委員会	一般予算に係る手続きについて
	8月20日、21日 学校法人電波学園	2019年度夏期教職員研修会	学園全教職員を対象とした研修会
	9月18日 学校法人電波学園	2019年度第5回部課長研修会	2018年度決算報告および2020年度予算について、就業規則変更(有給休暇)について
	10月9日 学校法人電波学園	2019年度第3回事務委員会	学校事務のあり方について
	10月16日 学校法人電波学園	2019年度第6回部課長研修会	命の大切さを今一度考え学校現場での指導にいかす
	11月20日 学校法人電波学園	2019年度第7回部課長研修会	I C T教育について
	12月18日 学校法人電波学園	2019年度第8回部課長研修会	eスポーツの現状と今後の展望について」
	12月23日 学校法人電波学園	2019年度冬期教職員研修会	学園全教職員を対象とした研修会
	1月15日 学校法人電波学園	2019年度第9回部課長研修会	業者から見た募集活動状況について」

	1月22日 学校法人電波学園	2019年度第4回事務委員会	高等教育の修学支援新制度について
	2月19日 学校法人電波学園	2019年度第10回部課長研修会	各種委員会からの報告
	2月25日 学校法人電波学園	2019年度第5回事務委員会	学校事務のあり方について
	3月18日 学校法人電波学園	2019年度第11回部課長研修会	人事部からの連絡
	3月25日 学校法人電波学園	2019年度第6回事務委員会	学校事務のあり方について
2020	4月2日 愛知工科大学	2020年度「新任教職員説明会」	新任教職員が教育・研究活動等に取り組むに当たり本学の建学の精神(教育理念、教育体勢、教育・研究支援体勢)等の基礎的な知識を理解する
	6月9日 駿台予備校	2020年度大学入試結果説明会 (Web開催)	「駿台のデータによる2020年度入試結果説明と新制度入試の現状と課題」のテーマで実施されたセミナー
	6月10日 株式会社DISCO	WEB広告・ソーシャルメディアの活用術 (Web開催)	今さら聞けないWEB広告の基本、最適なWEB広告の運用方法について
	6月17日 学校法人電波学園	2020年度第1回部課長研修会	本部からの連絡事項
	6月25日 学校法人河合塾	大学入学者選抜改革Webセミナー (Web開催)	大学入試における多面的評価の意義と実践、一般選抜における多面的・総合的評価の試み、主体性等評価とその評価システムの利活用の実態と課題について
	7月7日 株式会社KEIアドバンス	第1回大学入試・広報セミナー (Web開催)	2020年度入試志望動向および大学入試改革の現状
	7月13日 学校法人電波学園	2020年度教務・事務委員会 (合同開催)	<ul style="list-style-type: none"> ・学園奨学金制度の確認について ・各校分納制度の確認について ・遠隔授業システムの検討について ・在宅勤務(テレワーク)の検討について
	7月15日 学校法人電波学園	2020年度第2回部課長研修会	学園ロードマップ「中期計画の策定について」 2019年度決算報告について
	8月20日、21日 学校法人電波学園	2020年度事務職員研修会	トーマス操作説明会
	9月16日 学校法人電波学園	2020年度第3回部課長研修会	電波学園中期計画案の説明・共有・意見交換

10月8日 ベネッセコーポレーション	Between ウェブセミナー (Web 開催)	ポストコロナで考える学生募集/ 最新データから見る高校と高校生 の実態について
10月9日 株式会社エデュース	with コロナ学生募集セミナー (Web 開催)	コロナ禍における学生募集後半の 戦略を考え、With コロナ時代の学 生募集を戦い抜く術を伝授
10月12日 学校法人電波学園	2020年度教務・事務委員会 (合同開催2回目)	・新型コロナウイルス助成事業 (日本学生支援機構)について ・学納金分納制度の学園統一につ いて ・校費に関する取り扱いについて ・在宅勤務(テレワーク)について (中間報告)
10月14日 株式会社 DISCO	ディスコ WEB セミナー (Web 開催)	学生募集の DX～オンライン時代の 学生募集広報について
10月21日 学校法人電波学園	2020年度第4回部課長研修会	With コロナ時代に求められる教育
10月29日 スタディプラス株式会社	オンラインセミナー (Web 開催)	新しい大学入試広報のカタチ・来 年度への具体的施策、受験生のウ ェブ行動の見える化と LINE で のコミュニケーション事例とノウ ハウについて
11月11日 Adobe 株式会社	「視聴者に響く」テーマ選びと 動画制作の流れ (Web 開催)	顧客となる視聴者に「響いて」関 係性を深められる動画テーマの選 び方、動画コンテンツの制作はど のような流れで行われるかの概要 について
11月18日 学校法人電波学園	2020年度第5回部課長研修会	LGBT の理解と対応について
11月27日 Adobe 株式会社	動画の「設計」と「材料集め」 初めてでもできるシナリオ作 成と収録のノウハウ (Web 開催)	動画の設計図にあたるシナリオ作 りのポイントや、動画素材の収録・ 収集について紹介
12月7日 株式会社マイナビ	Web セミナー (Web 開催)	学費サポートについて
12月14日 学校法人電波学園	2020年度教務・事務委員会 (合同開催3回目)	・導入状況報告および今後の予定 についての説明 ・第5版について変更点等の説明
12月16日 学校法人電波学園	2020年度第6回部課長研修会	AI 面接について
1月27日 学校法人電波学園	2020年度第2回事務委員会	・高等課程軽減事務に関すること ・専門課程学費事務に関すること ・ICT を活用した業務改善への取 組みについて ・経理事務諸規程集(第5版)の説 明および質疑応答

2月19日 学校法人電波学園	2020年度第7回部課長研修会	WEB出願システム（募集システム）の現状報告と今後の予定について
2月24日 学校法人電波学園	2020年度第3回事務委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末業務に関する連絡 ・学費事務係からの連絡 ・修学支援金事務からの連絡 ・施設貸与規程の改定について
3月17日 学校法人電波学園	2020年度第8回部課長研修会	各種委員会報告
3月24日 学校法人電波学園	2020年度第4回事務委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度のまとめ ・決算業務に関する連絡事項（財務課） ・学費事務、修学支援、軽減事務からの連絡（庶務課） ・業務の効率化プロジェクトについて

日常的な業務の見直しや事務処理の改善については、学内外の研修会に参加し業務の課題を把握・発見しつつ見直し改善を図っている。

教育目標を実現のため直接学生に働きかける教員とともに、各委員会に事務職員が参画し、教育環境や規程の整備の支援を行っている。

(b) 課題

現在、短期大学評価企画 IR 室を設置しているが、専従の IR 担当職員ではないため、様々なデータの収集・分析を行い、大学にとって有用な情報を提供できるようにするには、高度な専門性を有するよう定期的に研修会に参加させていく必要がある。

[区分 基準Ⅲ-A-4 労働基準法等の労働関係法令を遵守し、人事・労務管理を適切に行っている。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 教職員の就業に関する諸規程を整備している。
- (2) 教職員の就業に関する諸規程を教職員に周知している。
- (3) 教職員の就業を諸規程に基づいて適正に管理している。

<区分 基準Ⅲ-A-4 の現状>

教職員の就業に関する諸規程は、学園就業規則（規定集-25）をはじめとして、嘱託職員に関する就業規程（規定集-26）、育児・介護休業規程（規定集-27）、定年規程（規定集-28）、退職手当支給規程（規定集-29）、給与規程（規定集-30）等を整備している。また、教員の採用・昇任については、愛知工科大学自動車短期大学教育職員任用及び昇任規程（規定集-31）及び愛知工科大学自動車短期大学教員選考基準（規定集-32）に照らして

実施している。

規則及び規程は、学園エクストラネット及び短期大学のイントラネットにて全教職員に公開されるとともに、事務局において、規程集として常時備え付け、いつでも閲覧可能である。規程の制定は、学内イントラネットにより即時周知されるようになっている。

学園就業規則(規定集-25)をはじめ、その他関連規程に基づき、教職員の勤務、休暇、休職、退職等の服務に関する事項について、出勤簿等を備え適正に管理している。

<テーマ 基準Ⅲ-A 人的資源の課題>

今後の収容定員充足状況によっては、人件費率を勘案して教職員の人数を圧縮する必要があり、教育の質を落とさず、効率的な教育を提供できるかが課題となっている。

[テーマ 基準Ⅲ-B 物的資源]

<根拠資料>

備付資料-規定集

- 33 学校法人電波学園経理規程
- 34 学校法人電波学園経理規程施行規則
- 35 愛知工科大学・愛知工科大学自動車短期大学危機管理規程
- 36 愛知工科大学・愛知工科大学自動車短期大学防災管理規程
- 37 個人情報保護に関する規程
- 38 大学保有個人情報管理規程
- 39 ネットワークシステム利用規程

[区分 基準Ⅲ-B-1 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて校地、校舎、施設設備、その他の物的資源を整備、活用している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 校地の面積は短期大学設置基準の規定を充足している。
- (2) 適切な面積の運動場を有している。
- (3) 校舎の面積は短期大学設置基準の規定を充足している。
- (4) 校地と校舎は障がい者に対応している。
- (5) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて授業を行う講義室、演習室、実験・実習室を用意している。
- (6) 通信による教育を行う学科・専攻課程を開設している場合には、添削等による指導、印刷教材等の保管・発送のための施設が整備されている。
- (7) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて授業を行うための機

器・備品を整備している。

- (8) 適切な面積の図書館又は学習資源センター等を有している。
- (9) 図書館又は学習資源センター等の蔵書数、学術雑誌数、AV資料数及び座席数等が適切である。
- ① 購入図書選定システムや廃棄システムが確立している。
- ② 図書館又は学習資源センター等に参考図書、関連図書を整備している。
- (10) 適切な面積の体育館を有している。

<区分 基準Ⅲ-B-1の現状>

校地については、表Ⅲ-B-1のとおり学生収容定員300人の必要面積3,000㎡に対して、7,463㎡の校地を有していることから短期大学設置基準を充足している。

運動場用地については13,508㎡(大学と共用)のほか、テニスコート2面を有しており、体育の講義のほか、クラブ活動や地元市民にも開放している。

表Ⅲ-B-1 短期大学設置基準と校地面積の比較 (単位：㎡)

校地面積					設置基準上必要面積
区分	専用	共用	共用する学校等の専用	計	
校舎等敷地	7,463	0	45,126	52,589	3,000
運動場用地	0	7,008	0	7,008	
計	7,463	7,008	45,126	59,597	

校舎面積については、表Ⅲ-B-2のとおり短期大学設置基準の必要面積3,350㎡に対して、14,478㎡を有しており、短期大学設置基準を充足している。

表Ⅲ-B-2 短期大学設置基準と校舎面積の比較 (単位：㎡)

校舎面積					設置基準上必要面積
区分	専用	共用	共用する学校等の専用	計	
短期大学	8,064	20,322	11,659	40,045	3,350

建物内外はバリアフリー化を進め、障がい者用トイレ、エレベーター、スロープ、車椅子利用者用駐車場等を設置し、障がい者に配慮している。

教育課程編成・実施の方針に基づき授業を行うための教室、講義室、実習室を備え、機器・備品を整備している。また、経年劣化が生じる機器・備品類は、年度予算に計上し適時点検・整備を行っている。

図書館は大学と共用しており、蔵書数39,300冊、座席数246席を有し、閲覧室を合わせた面積は1,191㎡である。86種の国内外の定期購読雑誌やAV資料、技術資料を収

集保管し、閲覧・貸し出し・レファレンスサービス等が効率的に行えるようになっている。

表Ⅲ-B-3 図書館所蔵資料数（2020年5月1日現在）

図 書		定期購読雑誌		視聴覚資料	楽 譜
39,300		86		795	157
和書	洋書	国内雑誌	外国雑誌		
32,502	6,798	81	5		

図書の購入については、教員、学生による選書を行い、図書委員会による審議のうえで利用者のニーズに合わせた蔵書構築を行っている。さらに科学技術振興機構、国立情報学研究所のデータベース検索サービスの利用により、学習・研究のためのインターネットによる学術文献情報取得の要望に応じている。受入図書の登録・除籍については、電波学園経理規程並びに愛知工科大学自動車短期大学図書館資料の不用決定及び除籍に関する処理要領に基づき適正に管理している。

体育館の延べ床面積は、2,836 m²（大学と共用）で授業及び課外活動に充分活用している。また、多種多様なトレーニングマシンを導入した多目的体育室（トレーニングルーム）を備え、学生に開放している。

(b) 課題

障がい者に対応した施設整備をしているが、充分でなく一部の建物に限られており、車椅子利用者にとってはバリアとなる部分が残されているので、一層のバリアフリー化を目指したい。

[区分 基準Ⅲ-B-2 施設設備の維持管理を適切に行っている。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 固定資産管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等を、財務諸規程に含め整備している。
- (2) 諸規程に従い施設設備、物品（消耗品、貯蔵品等）を維持管理している。
- (3) 火災・地震対策、防犯対策のための諸規則を整備している。
- (4) 火災・地震対策、防犯対策のための定期的な点検・訓練を行っている。
- (5) コンピュータシステムのセキュリティ対策を行っている。
- (6) 省エネルギー・省資源対策、その他地球環境保全の配慮がなされている。

<区分 基準Ⅲ-B-2 の現状>

学校法人電波学園経理規程（規定集-33）及び同経理規程施行規則（規定集-34）により、会計処理並びに計算書類の作成等経理業務に関する基準が定められている。固定資産会計、物品会計、内部監査の各章における固定資産管理、物品管理等の取り扱いによ

り、備品台帳等を整備し適正に維持管理している。

火災・地震対策、防災対策については、愛知工科大学・愛知工科大学自動車短期大学危機管理規程(規定集-35)及び、愛知工科大学・愛知工科大学自動車短期大学防災管理規程(規定集-36)を整備し、防災マニュアルの作成や防災カードの作成等による防災教育の実施、防災訓練や安全対策等の防災活動を実施している。また、全学生・全教職員による防災訓練を年1回実施している。(2020年度はコロナ感染防止のため簡略化して実施)。

委託業者による防火設備の定期点検を実施し、非常時対応に備えている。防犯対策としては、警備会社と委託契約を結び、学内主要箇所にセキュリティ設備を導入するとともに、市内の警察署、消防署とも連携を図っている。

コンピュータシステムのセキュリティ対策については、愛知工科大学メディア基盤センターが中心となり、情報セキュリティ対策に関する情報提供やファイアウォールの設定、ウイルス対策ソフトウェアの提供等、対策を講じている。学内ネットワークにおいては、教職員用と学生用の環境設定を設け、セキュリティに配慮するとともに、個人情報保護に関する規程(規定集-37)、大学保有個人情報管理規程(規定集-38)、ネットワークシステム利用規程(規定集-39)等を定め、適切な管理を行っている。

省エネルギー・省資源対策については省エネ温度の設定、エレベーターの部分停止、タイマー設定や人感センサーによる照明・空調管理等を実施している。またソーラー発電による夜間外灯の設置やLED照明への切り替えを順次行い対応しているほか、バイオ燃料によるスクールバスの運行を行っており、地球環境保全へも一役を担っている。

<テーマ 基準Ⅲ-B 物的資源の課題>

経年劣化した教材・教具等は計画的に取り替えていく必要がある。

<テーマ 基準Ⅲ-B 物的資源の特記事項>

建物によっては建築後30年以上経過しているものがあり、改修の時期に来ている。これに併せ、学内施設のバリアフリー化を一層進めていく。

図書館の利用環境は概ね良好であるが、学生の利用はそれほど多くはない。引き続き授業において推薦図書を紹介や学生からの希望図書の購入、図書館から学内の電子掲示板を通して周知する等、学生の利用向上に努める。

今後古くなった装置・設備については、毎年見直しをして、計画的に整備、維持、廃棄管理等をしていく。また、コンピュータシステムのセキュリティを一層安定的に確保するとともに、新しいデバイスに対応したネットワークの整備を行う。

[テーマ 基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源]

<根拠資料>

[区分 基準Ⅲ-C-1 短期大学は、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて学習成果を獲得させるために技術的資源を整備している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて技術サービス、専門的な支援、施設設備の向上・充実を図っている。
- (2) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて情報技術の向上に関するトレーニングを学生及び教職員に提供している。
- (3) 技術的資源と設備の両面において計画的に維持、整備し、適切な状態を保持している。
- (4) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて技術的資源の分配を常に見直し、活用している。
- (5) 教職員が学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて授業や学校運営に活用できるよう、学内のコンピュータ整備を行っている。
- (6) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて、学生の学習支援のために必要な学内 LAN を整備している。
- (7) 教員は、新しい情報技術などを活用して、効果的な授業を行っている。
- (8) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて授業を行うコンピュータ教室、マルチメディア教室、CALL 教室等の特別教室を整備している。

<区分 基準Ⅲ-C-1 の現状>

自動車整備に係る測定機器がネットワーク化された最新の検査ラインをはじめ、トラックの整備が可能な大型リフト、安全で快適な実習環境を提供するための排出ガス屋外排出システム等を整備した自動車棟が平成 23 年 1 月に完工している。

情報技術の向上に関するトレーニングに関して、学生に対しては、入学時にパソコン室の利用方法についてのガイダンスを実施している。また、自学自習システム(eラーニング「コーカくん」)の利用法については、各種資格試験の補講時期に合わせてガイダンスを実施している。

実習車両も最新の装置を搭載した新車(トラック、乗用車)を計画導入し、乗用車については、故障診断機及びパソコン用診断ソフトウェアを平成 26 年 9 月に導入したことにより、自動車整備士を養成する短期大学としては最先端設備を有する施設となっている。

情報ネットワークは、愛知工科大学メディア基盤センター運営委員会及び愛知工科大学メディア基盤センターが中心となり技術支援、施設の設置、維持管理、将来計画を行っており、必要な環境整備を常実施している。パソコン室の施設・設備については概ね 5 年ごとに見直し、リプレースの計画・立案を行い、常に良好な教育環境の提供

に努めている。

各教室、自習室、図書館及び実習場には学生セグメントに属する有線 LAN ポートが整備されており、インターネット及び教育資源への接続が可能である。加えて、学内に無線 LAN アクセスポイント(LAN AP)(Wi-Fi 対応)が設置されており、希望する学生及び教職員は、学内の主要な場所から学生セグメントにアクセスでき、インターネット及び教育資源への接続が可能である。なお、学生のほとんどがスマートフォンを所持していることにより、学内無線 LAN アクセスポイントへの利用が高まっている。このように、学生がインターネットや学内 LAN に容易にアクセスできる環境を整えており、学習成果向上のための技術資源は整備されている。

教員は授業においてパワーポイントのよる講義を行っている。また、e ラーニング「コーカくん」を用いた自主学習支援を実践し、効果を上げている。

情報リテラシー教育は、パソコン実習室を用いて行っている。

<テーマ 基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源の課題>

今後古くなった装置・設備については、毎年見直しを進め計画的に更新していく方針である。

<テーマ 基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源の特記事項>

パソコンなどの IT 機器については、OS の自動更新やアンチウイルスソフトなど授業で使用するソフトウェア以外の負荷が毎年増大し、特に起動直後のレスポンスの緩慢さが著しかったので、6306 パソコン実習室は、2017 年 9 月に 47 台のパソコンを更新した。また、一部のアクセスポイントで繋がりにくいなどの障害は改善された。